



337
915

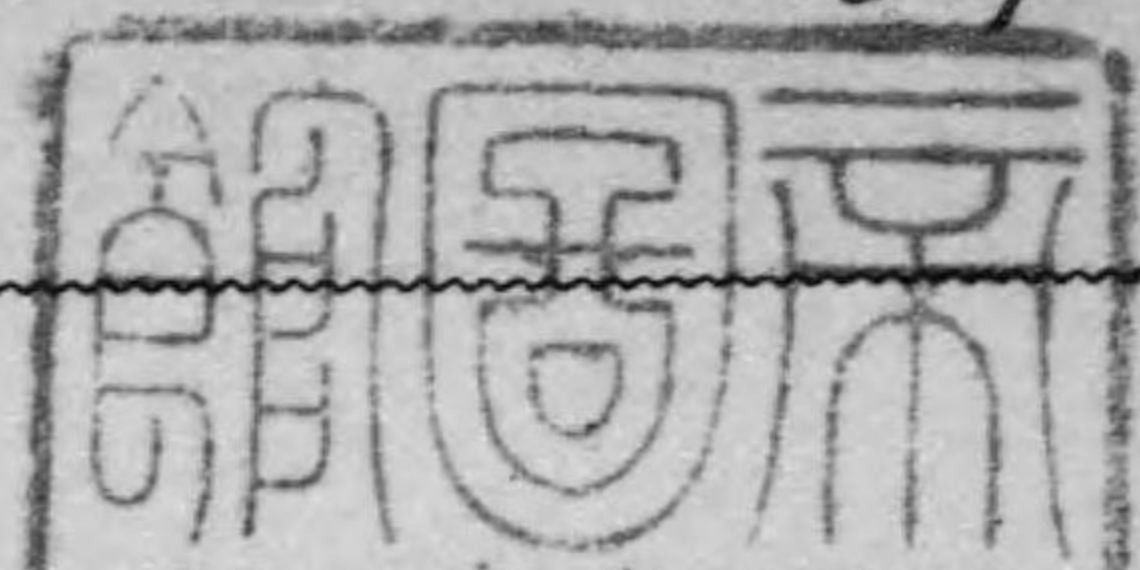
農村振興策



始



339-915



序

熊本縣農會は今回農村振興策を題する冊子を印行して汎く之を縣下各町村に頒たんとし余に需むるに其序文を以てす抑農村の振興は國家發展上最も重要な問題の一にして自治に教育に或は産業に益々其の精神を發揮せしめ堅實なる農村の美質を保持し勤勉力行の氣風を馴致するにあらざれば其の成果を期する能はざるは縷説を要せざるなり

輓近時勢の變遷に伴ひ奢侈の風滔々として社會の各階級を侵し勤勞を厭ふの風漸く著しきものあるは深憂に堪へざる所にして農村の振興を策するもの年々共に多きを加ふるは洵に故あるなり

大正
4.19
内交

本書は常に農村に接觸せる諸氏が現在に於ける農村の實狀に鑑み之が振興に關する意見を披瀝したるものにして其の論ずる所極めて卑近にして切實克く其の肯綮を得たるの良著にして決して机上一篇の空論に非ざるなり職に農村經營の衝に在る者常に之を繙きて資料と爲さば農村振興に裨益する所蓋し尠少ならざるべきことを信ず仍て以て序と爲す

大正六年三月

熊本縣知事從五位勳三等 太田政弘

緒言

農村振興問題は近時其の聲朝野に喧傳せられ既に學者政治家其他名士の建策少からず或は地價の修正地租の輕減教育費の國庫分擔等國家的見地より論究せるあり或は産業經濟教育自治民育の方面に亘り自治的見地より論議せるあり農村問題は漸くにして繁からんとす

本會は農界關係の各方面に最も卑近切實にして縣下の農村に適應すべき振興意見を需め之れを上梓に附し以て農村經營の當事者に頼つこととせり幸に之れを以て我が農界振興に資益するところあらんか本會の欣幸之に過ぎざるなり

大正六年一月

熊本縣農會長 村上 一 郎

目次

- 一、農村振興策
- 一、農村振興策
- 一、自覺せよ
- 一、根本に觸れよ
- 一、農村振興と中心人物
- 一、農村の自治的振興策
- 一、疲弊せる農村の爲に
- 一、積極的農村振興策
- 一、農村振興策

熊本縣農商課長

吉富正	鈴木貞太郎	堤光次郎	古賀信義	三嶋壽作	井上龜五郎	迫鐵太郎	木村虎雄	鳥海二郎
-----	-------	------	------	------	-------	------	------	------

頁一 九 五 三 四 五 六 七 八 九 一〇 一一 一二 一三 一四 一五 一六 一七 一八 一九 二〇 二一 二二 二三 二四 二五 二六 二七 二八 二九 三〇 三一 三二 三三 三四 三五 三六 三七 三八 三九 四〇 四一 四二 四三 四四 四五 四六 四七 四八 四九 五〇 五一 五二 五三 五四 五五 五六 五七 五八 五九 六〇 六一 六二 六三 六四 六五 六六 六七 六八 六九 七〇 七一 七二 七三 七四 七五 七六 七七 七八 七九 八〇 八一 八二 八三 八四 八五 八六 八七 八八 八九 九〇 九一 九二 九三 九四 九五 九六 九七 九八 九九 一〇〇



農村振興策

吉 富 正

緒 言

戦に望むで勝を制せんと欲せば先づ仔細に敵状を偵察し之に依りて適當なる方略を定めねばなるまい、獨り戦争の事而已でなく事々物々皆然りて農村の改良振興を計らんとせば亦農村の状態に精通するを要する論を俟たない、然るに其基礎根本となるべき諸調査諸統計の眞に據るに足るべきものが甚だ少ないやうに思ふ、即或は粗漏杜撰なるものがあり、或は故意に過少の數を擧げたではないかと疑はるゝものがあり、或は其美を衒はん爲め却て誇大的計數を示したではないかと感せしむるものがある、或は誠に困ることがある、斯の如き材料で以て農村の改良振興の策を講せんとするは實に大膽極まる事であり且つ淺學非才を以てするに至りては寧ろ滑稽に類するかも知れぬと思ふこと言はねば腹脹るゝ心地すともいへば一二所感を吐露して大方の



此正を乞はんと思ふのである。

第一 勞力分配の改善

一体吾國農業の組織は夏作農業とも稱せらるゝ程で一方に偏して勞力の分配は甚だ面白からぬ現象を呈して居る、恩師故齋藤農學士の調査に依ると一年中何地も六、七、八、九、十、十一月は不足し十二、一、二、三、四、五の月は餘裕を示して居る即ち年間を通して計算すれば却つて勞力過多である、之れ即勞力の分配宜しきを得ざる處で農業經營上不利を來す原因となる事と思ふ、要するに初夏より秋末までは非常に忙しくて勞力に不足を感じたものが晩秋より初夏にかけては勞力か餘るといふ奇現象を呈して居る、斯の如く勞力の分配宜しきを得ぬ爲めに利潤が擧らぬことになる、其利潤の擧らぬといふには證據がある、先年岐阜縣農會で小作經營の經濟的調査をした事があるが其結果によると生産物の代價より小作料肥料代其他の支出を引去つた残りを以て稻作に要した勞働日數に割當てゝ見ると一日の賃金多きは貳圓餘少きは五拾幾錢に當り平均壹圓餘になつて居る、尤も之は米價の高き時の調査であるから普通は尙多少の低賃金として見るが宜しからんも而も農作物中利

益の少ないものとしてある稻作に於ても尙一日壹圓餘の勞働賃金に相當すると思へば農業の組織を改善すると共に機械の應用畜力の利用等で以て勞力の節約を計ると同時に農閑時に於ける餘力の利用に大なる努力を要するものと信する、畢竟吾が農業は金よりも寧ろ腕力によりて立ち行く農業であるから一方に於て勞力を節約すれば一方に於ては其餘れる勞力の効能を發揮することに力めねばならぬ、共同苗代、稚蠶共同飼育其他擧げ來れば勞力の節約は數多あるが節約した勞力を空費するから困るのである、吾が農業の勞働賃は歐米のそれに比すると物にならぬ程安いから少しい位の節約は何とも思はぬ風がある、故に農村一戸一年に要する勞力と之に供給し得べき勞力を調査して權衡を失はぬ様にせねばなるまい、斯の如く農業上の勞力の利用分配を能く調和せしむると共に尙茲に研究を要するものは農家の家庭全部若くは大多數が其業務の一部を擔當し得る適當なる副業を興ふるとが頗る緊要なる事項ではあるまいか、貧乏子澤山といふが、實際子供に限らず煩勞に堪へ得ぬ所謂食潰し者の多い家は相當に収入はあつても支出多い爲め收支相償はず果ては饑寒に苦しむつゝあるものを往々見受くるのである。嗚呼適當なる農業の組織を講じ適當なる勞

力の分配につきて研究し適當なる副業を探索指導する事は實に目下の農村振興上に於ける緊要事ではあるまいか我縣農會が副業調査を企畫せる處に時宜に適したるものと信ずると共に充分なる成果を得んことを囑望して止まぬ次第である

第二 農村婦女の農的智識普及

夫は外に耕し婦は内に織る此の如く劃然分業的に農業が經營せらるるならば圓滿に進行發展する事が出来るならんも前述の如く農の仕事は繁閑其宜しきを得ると甚だ六ヶ敷い、それで閑な時には男も内に働かねばならぬし繁忙で猫の手でも借り度いといふ時には内の仕事はさて置いて女も走り出して手傳はねばならぬといふ有様である。斯の如くして農村の婦女は内にありては家政を治め外に出でては耕作に従事するといふが常である、故に農家に於ての婦女子の權力は實に侮る可からざるものがある講習講話等で得た男子の改良心も偶々婦人の一擧に遇ふ時は爲めに其氣勢を殺かるゝ事あるは往々にして見聞する處である而かも婦人は講習講話等改良的智識を得る機會少なく偶々聞くもそれは養蠶位に止まる、故に其智囊に至りては甚だ貧弱なるものである、貧弱なるが故に或は面倒臭しといひ或は何或は何と種々難辨付け

て男子の向上的鼻柱を打挫ぐに至る、一面から見ると憫然な氣もする、されば婦人の農的頭腦を改良向上せしめて眞の内助者たらしむること亦一緊要事たるを信する然らば其方法如何。

一、講習講話等には婦人も共に出席聴講せしむること

二、婦人の一坪農業

敢て一坪に限つた譯ではないが婦人農藝會の如きものを組織せしめ婦人で爲し得る範圍で且つ其農村に適當なる作物を選びて作らしめる、而して之には敢て男子の干渉を許さぬ事として彼等が講習講話等に依りて得たものを實地に應用せしめ不知不識の間に農業の實際的智識を會得せしめ同時に之から得た収入の全部若くは其一部は婦人の所得たらしむる様にしたら宜しからう、例へば町附近で蔬菜の需要ある處では之を選むもよからうし養蠶地では桑苗の育成と接木の練習をなさしめて廢棄すべき桑の改植を容易ならしむる事も出来やうし其地其地に適當なる作物を選択して利益と趣味とを同時に得せしむる様な仕組にしたらは大なる効果が擧るであらう

三、成績品の品評會

右の如くして收めたものは適當の時期に適當の方法で品評會を催し又成績品の種類によりては之を材料として料理會の如きものを開きて農村に於ける最も劣れる料理法の研究をもなさしめたならば單に婦人の爲のみではあるまい

第三 農村青年子女の轉業熱防遏

農村此後の發展について期待せらるゝものは何といつても青年子女である若し此等の人々が農業を嫌ひ農村生活を厭ふて都會に走る様になつたら農村の末路は憐むべきものであらう、而も此傾向は年と共に高まりつゝあるは疑を容るゝ餘地はない、其茲に至れる原因は何か。

抑も彼等青春に富めるものは動的であつて靜的でない、然るに農村の狀態は彼等の好み喜ぶ所の動的のものが甚だ少ない、偶々あるとしても村芝居、鎮守の祭、盆踊位のものであるが、それさへ時によると風紀紊亂等の理由で御差止を食ふ事がある、翻つて都會の狀態は如何、見るもの聞くもの青春燃ゆるが如き彼等の心理をそゝるものゝみで外部許りの觀察では何處にも彼處にも寶の山が積み上げられて一擧手一投足の勞で直ちに一攫千金を得ると容易なものゝ様に思はるゝから都會は實に面白い活動場所の様に見ゆる、斯の如く彼等の心を煽り吸引力の強き都會である、之を引止めんとするは中々困難な事である、而も彼等をして轉亡せしむれば此後の農村を奈何である、然らば彼等の轉亡を防ぐの法如何。

一、農業の眞味を會得せしめ勞働の神聖なる事を知らしむること

何事によらず趣味を持つ様になれば快樂は自ら生じ勞働も苦にならぬものである如く農業の眞味を會得せしむる必要があると思ふが之れ甚だ困難な事である、講習講話(之は技術の方面のみならず宗教道徳方面よりも實の道具を拵へて善く導いたならば効果一層顯著である)誠に必要であるが尙進んで少し氣永い話の儘でもあるが急がば廻れて小學校時代より大に鼓吹して貰ひ度いのである、所謂三ツ子の心百迄で小供の時充分吹込んで置かぬと其効果が鈍かると思ふ、小學校も高等科には既に農業科を講して居るけれども尙尋常生より農業の趣味を感せしむる様に或る時間を農業に費さしむる方法を講して貰ひたいのである、而して此時代に於て大に之が養成に勉めて貰ひたいのである。

二、娛樂機關の設備

娛樂の種類は種々あるべきも苟も風紀を亂る如き種類は絶体に斥くべきであるがさりとて餘り四角張て上下を着けたやうでも却て無趣味に終ることになると思ふ、金でもあつたら圖書館的に小奇麗な家を作り新聞雜誌等を備へ付け集まるものをして自由に縦覧せしめ又其側に附屬せしめて風呂場の設備をするもよろう、而して日曜か又は或る日か定めて互代に湯を沸かして入らしむるか如き方法も宜しからう、學校の記念日、村祭等には種々の餘興を催さしむるもよし、例へば競走、擊劍或は農産物其他材料を使用して種々の造り物を作るか又は假裝行列を催すが如き或は廣島縣と思ふが彼の縣でやつて居る如き常識カルタ様のものを造つて遊ぶか如き娛樂を常識さを兼ね得らるゝ良好なる方法であらうと思ふ。

結 論

古諺に言ふは易く行ふは難しといふ語がある、以上述べた事も既に諸先輩の唱導せられたものに過ぎない、併し實行せられた跡の甚だ顯はれて居ないので遺憾とするのである、畢竟現今の農村には人と金の乏しいのが欠點である、故齋藤農學士は農村には生神様が必要であると言はれた苟も農村の民をして敬慕の念を抱かしめ其一言一行は善く彼等農民をして遵守せしむる様な人が居つて農村指導の任に當つて呉れたなら思ひの外に發展すべきも之は何時でも得らるゝといふ譯には出來ぬから先づ金を増殖する方法を講すべきであらうと思ふ、而も農村には亦其の機關に乏しい茲に於て彼の道德と經濟とを圓めて一丸としたるが如き同時に農村に最も適當なる信用組合の如きものを組織して健全なる金融機關に依りて一面には貯蓄を容易ならしめ一面には之を有用の事業に使用することに力めて行つたならば實に好結果を得るであらう、衣食足つて禮節を知るとは千古の金言で衣食住に饜餽せぬまでになつたならば民心が自然に穩かとなり、人氣も從て長方面に引き立てられて獎勵の事業改良の方法も容易に勵行さるゝこと疑を容れないのである要するに農村は今疲弊の域

に向ひつゝあるは事實であるけれども仔細に其内容を調査探究すれば開發の餘地は尙綽々たるものがある様に見受くる、故に施設其宜しきを得運用亦其法に適はば目覺ましき發展をなし得るは信して疑はないのである。

農村振興策

鈴木貞太郎

農村問題の喧傳せらるゝや年既に久しく、之が振興に關し建策論議せられしもの其數枚擧に遑わらざるに、其農村に及せる影響を顧みるに、議論の喧しき割合に効果微々として擧らざるは抑も何故なる乎、蓋し其事由多々あるべしと雖も從來論せられたる、農村振興策の未だ本邦農村不振の根本原因に觸れ居らざりしには非ざるか然らば農村不振の根本原因とは何をか云ふ、即ち本邦農村の現状より之を観察すれば農業は生産的方面に於ては大に進歩の跡を認むるは左表に依り明かなり。

事項	全 國		熊 本 縣	
	明治三十七年	大正三年	明治三十七年	大正三年
米作付反別	二、八〇、七五町	一、三〇、三六町	七、三三町	八〇、二四町
麥作付反別	一、八〇〇、三九町	一、八三三、二六町	九四、〇四町	九五、九七町
米收穫高	五、四三〇、三三石	五、〇〇〇、二〇石	一、三三、七三石	一、五〇、六〇石
麥收穫高	一、九、六四、三三石	二、二四、三三石	六〇、三三石	八三、七二石
米一反當收穫高	一、七五	一、八九	一、八三	一、八七
麥一反當收穫高	一、〇九	一、五三	〇、八三	〇、八三

◇斯の如く其生産的方面に於ては著しく進歩發達せるも、一方經濟的方面に欠陥を生じ一見矛盾せる事情の存するものあるは、從來の農業政策上農業經濟を論ずるものは、専ら生産増加を主義方針となせるの傾向あるに基因するなるべしと雖も、現在の農村をして愈々振興發展せしめんには、單に從來の農業組織に對する生産的方面の改善のみにては、多消費多生産を經濟本義とする日進月歩の時勢に處し、之れと角逐し以て社會の目的たる幸福を増進せしむるを得ざるや必然なり、即ち今後農業經濟を論ずる上に於ては農家の經濟を提唱し、家政經濟上にも一段の進歩を促し双

方の經濟を順調にして以て始めて收支相償ふを得農家をして困憊に陥ることを免れしむるに於ては農村の振興は期せずして實現せらるべきものなり、夫れ

經濟的方面の進歩を圖る

には先づ土地生産力の増加に待つ事必要なるは勿論なるも、亦從來徒勞に歸せられたる老幼婦女子の勞力及土地改良には農具の改善、各勞働者の勤勉等に依り節約せられたる勞力を一方に於て長く利用して全体の所得を増進し、文明の餘澤によれる各種共同の力を利用して益々其收利を大ならしめ、一方經濟上節約を斷行するにあらずんば能く其目的を達する事を得ざるなり。即ち近き例證としては先年東北及北海道に於ける不作の農民に及ぼせる慘憺たる光景を現出せる實例に徴して明かなり此等は固より其幾分は人力の如何ともすべからざる自然の齎したる結果なりとはいへ、一般農民が今少しく副業の必要なるを辨へ、而して之れに經驗あらんか其凶害は決して斯く迄に至らざりしを信するものなり、即ち副業は平時に於ては農家の經濟を圓滑ならしめ以て農村繁榮の基礎を鞏固ならしむるものなるが、又一面に於ては一旦凶作又は主作物の暴落せる場合に於ては農家を過度の悲慘に陥らしめず、能

く一道の光明と血路とを與ふるものなり、夫れ現時農家に於ける副業の必要なるは今更暇々を要せざる處なりと雖も其範圍には亦相當の限度なかるべからず。

◇從來本縣に於ても農村副業として奨励せられたる諸種の業態は一般的農家の副業として適せざるものありしが爲め、意の如く發達の機運に至らざりしと雖も獨り養蠶業は本縣の氣候風土に好適し、其經營を誤らざるに於ては却て主業を助長せしめ得るのみならず、資本並原料を多く要せざると、家庭的に従事し得るを以て老幼婦女子等の一般的勞力をも利用し得て、而かも其生産品の販路廣大なる等、何れの方面より研究するも本縣農家の實狀に照し其所得を増進し經濟の圓滑を計る上に於て最も適當なる業態なるを信じ、此見地より吾人は、

農村振興の一策

……敢て全策と言はず……として普く養蠶業を農業組織中に加味經營せられん事を希望するものなり。

◇抑々養蠶業は前陳の如く農家の副業として理想的の業態と稱するを憚らざるも、只憾らくは今日迄新業の前途に忌むべき障壁の築かれたる一事あり、即ち從來養蠶

は一部の人士によりて投機的の事業なるが如く見做されたるは畢竟身分相當、家内相當といふ副業の根本義を超越して、徒らに過分の利に迷ひ無謀の經營をなしたる結果に外ならず、故に養蠶業其物の性質は最も農家の副業として適當なりしと雖も、經營者其方法を誤りたるものにして罪は決して養蠶業にあるにあらざりしなり、されば實際其經營に當りては更に大なる注意を要すべきものにして、特別の事情なきに非されば、自己の桑葉、設備の程度を考へ、家内の手間並農閑勞力分配に應じ掃立量を限定し、以て全力を傾注し、其範圍を脱せざる程度に於て、之を經營すべきものにして、若し其本旨に悖る時は一朝事あるに際し再び起つ事能はざるの運命に立至り、其結果主業迄も放棄せざるべからざるの破目に陥る事なしとせず、

◇元來養蠶業は

經濟の二字を基礎

とすべきは勿論にして、種類改善、飼育法並桑樹栽培法の如きは其最終の目的を達する爲めの手段に過ぎざるなり、然らば優良繭を得て高價に販賣し以て純収益を多からしめんとするには、何れの軌道を以て捷徑とするや……とは一般當業者の問は

んと欲する處にして亦蠶絲業經營の根本要義たるなり、凡そ養蠶資金の大部分は蠶兒の生命を繫ぐべき桑葉にあるを以て、桑を安價に得ると否とは其經濟に大なる關係を有するものなれば、所謂養蠶經濟問題解決上に於て最も必要なる一條件として桑園整理を絶叫するものなり。

◇即ち桑園の荒廢を整理する手段は土地の狀況により多少趣を異にする所あれども要は比較的經費を省畧して善良なる桑葉を作り、集約的經營の下に反當收繭額の増加に努むるは目下焦眉の急務にして、之が具体的の方法に就て述ふるの餘地なきを遺憾とするもコハ管に養蠶經濟問題のみに止まらず、繭質向上の上に著大なる影響を及すものあるを以て、之が整理恢復を見るに至らざれば、縦令絲價順境にありとするも本縣の蠶絲業は到底健全なる發展の域に達する事能はざるべし。

◇大正五年度に於ては絲價暴騰の活況に連れ蠶絲業は大に勃興せんとするの機勢ありと雖も今日の活況は永遠に持續すべきや否やは疑問にして或は大なる禍根をなすやも計り知るべからず、此れを以て正に來りつゝある

黃金時代は歡喜の秋に非ず

皆我が蠶業界の一大警鐘たらすんばあらざる也、即ち今日の黃金時代を迎ふる日を豫側する事能はざりしが如く、其反動時代も亦何時來るべきかは豫斷すべからずと雖も、必ず黃金時代の爛然たる時は各般事業の墮落する時にして、總て反動時代來るべきは音の反響に於けるが如し、されば蠶業家諸氏は將に來らんとする反動時代に處するの方策を樹て、養蠶家は繭一石を四十圓に、製糸家は生糸百斤を八百圓に、蠶種家は蠶種一枚を五十錢に賣りて相當利益ある様、事業の基礎を立て、騰貴の差額は天來の利益として收め之を有利に使用すべき也、差當り放漫なりし經營法を整理し以て個々の事業を安固ならしむるは我が蠶業界の根本的大策たらすんばあらず。

◇要するに本縣養蠶業の現状は先進地の夫れに比し未だ遠く及ばざる事左表の如し

各地蠶業に關する比較表

大正四年度調査

府縣別	收繭額	桑園反別	養蠶戸數	對農家百戸 養蠶戸數	對養蠶家一 戸收繭額	對蠶種一 枚收繭額	對如壹町步 桑園反別	對桑園一反 步收繭額
熊本	五、一八〇	五、五三九、一	三、九〇〇	三三	一、〇〇〇	一、〇〇〇	五、一	一、〇〇〇

縣別	養蠶戶數	養蠶家百戸	對蠶種一收	對蠶種一額	對蠶種一歩	對蠶種一反
福分	二,一九九	一八	九四八	一,〇元	五〇	五〇〇
大賀	三,四〇〇	一八	一,〇八五	一,〇一七	九二	九四〇
佐賀	二,四六五	三三	四三三	九五一	五三	九〇〇
宮崎	一七,八〇九	二二	九五九	九九九	七六	三九〇
島崎	三〇,〇七九	一九	五〇一	四九六	三七	三〇〇
玉島	八,七五六	五	二,九四九	七二二	二六	一,〇一〇
馬場	七〇,八六五	四	四,七八四	六六六	四七	九九〇
群馬	九〇,三三三	四	三,五〇八	九四三	三七	一,五六〇
愛知	三,五八八	三	二,九〇四	九三三	二〇	一,三三〇
静岡	三,九七四	三	三,三〇六	四,四〇〇	〇〇	一,〇一〇
山梨	一七,二九六	六	三,一四三	四,三〇〇	〇〇	一,〇一〇
岐阜	一七,二九六	四	五,一八四	七六五	四七	一,〇一〇
長野	四,三〇〇	五	三,九七三	四,八〇一	〇〇	六〇〇
福島	四,四九三	五	三,九七三	四,八〇一	〇〇	六〇〇
山形	三,六六〇	四	四,三四五	一,一八九	五,三〇六	六〇〇
愛媛	二,八九五	一	二,七六五	一,一四七	八一九	一,三三〇

備考

本縣農家戸數は大正四年度の調査に依れば拾三萬三千五百四十六戸にして内專業農家戸數拾萬壹千五百五十戸なり故に專業農家戸數百戸に對し養蠶戸數廿八戸の割合なり

各郡市蠶業に關する比較表

郡市別	養蠶戶數	養蠶家百戸	對蠶種一收	對蠶種一額	對蠶種一歩	對蠶種一反
熊本	一,五六八	六	七〇	二〇〇	一〇〇	八〇〇
託土	七三三	一六	一,三三〇	一,三三〇	五〇	一,一〇〇
宇名	五,三三二	三	一,四〇〇	一,四〇〇	九二	九二〇
玉名	四,四五九	四	一,三七〇	一,三七〇	一一五	一,一〇〇
鹿本	五,三三八	四	一,四〇〇	一,四〇〇	一一五	一,一〇〇
池本	一,四三三	一〇	一,一八〇	一,一八〇	一〇〇	一,〇〇〇
蘇城	一,四〇〇	二	一,二七〇	一,二七〇	一〇〇	一,〇〇〇
阿城	二,七三三	二	一,二〇〇	一,二〇〇	一〇〇	一,〇〇〇
上城	二,六二二	三	一,一三〇	一,一三〇	一〇〇	一,〇〇〇
下城	二,六二二	三	一,一三〇	一,一三〇	一〇〇	一,〇〇〇
八代	二,六二二	三	一,一三〇	一,一三〇	一〇〇	一,〇〇〇

草	北	110,110	1,470	1,012	1,010
球	磨	1,253,550	1,200	1,000	1,080
天	草	2,264,300	1,120	1,101	2,000
計		58,179,990	10	1	1

備考
本表中養蠶に関する事項は大正四年度調査に基き農家戸数に對する養蠶戸数の比は大正三年度の調査に據る

前表に依て之を見るに本縣は對蠶種一枚收繭額は他府縣に比し勝れる所あるは氣候風土長く斯業に適せるを證するものなりと雖も、其普及程度の如きは本縣農家戸數に對し僅々二割二分に過ぎざる有様にて、之を先進地の四割乃至六割に比し將來普及發展の餘地綽々たるは前表の明示する事實にして、殊に三四年來の本縣統計に徴するに産繭額の増加と養蠶戸數の増加とが併進せず、時によりては却て養蠶戸數の減少を來せる事ありしは畢竟養蠶業普及が部分的にして、一般的ならぬ活證にして、本縣農事の發展上實に遺憾とする所なり、其原因種々あるべしと雖も、前掲の如く

農家が農業經營に關する思慮の乏しさと、偶々養蠶業を經營するも其方針を誤り、經濟上の失敗を來せるに基因する事大なるべし、而して對桑園一反歩收繭額の如きも先進地の一石二斗乃至一石五斗に對比する時は遠く及ばざるを以て大に桑園改善の要を認むる所以なりとす。茲に於て乎吾人は本縣既往の調査に係る勞力及地積の餘裕に向つて積極的に農蠶業を經營せしめ、本縣斯業の健實なる發展を絶叫し、農村諸氏の奮勵努力を希望する所なり。

自覺せよ

堤 光次郎

熊本縣農會は、今回農村振興策なる小冊子を印行して、之を縣下の農村經營當事者に頒つの計畫である、而して縣農會の常務に従事する役職員は勿論であるが、他の關係各方面よりも意見を帶めらるゝことゝなつた、余も亦縣農會の一員に備はれる

の故を以て意見を發表するの義務がある、素より淺學不才其の任にあらざるも責塞ぎの爲め聊卑見を誌して紙上を汚すことゝなつた、是れ所謂盲目蛇に怖ぢずの類であらう。

農村困憊の聲は數年來朝に野に頻りに喧傳せられ、速に之が救済策を建てねば、動もすれば、農村の根底を覆し、遂には收拾すべからざる悲境に沈淪せんとは、異口同音何れの方面にも唱へられたのである、茲に於て各地とも、博士や名士の農村振興又は農村救済に關する意見や建策を、或は新聞に或は雜誌に發表して、當局者并に營業者の注意を喚起したることは、枚擧に遑わらぬ程である、而して是等の論ずる所は、多くは國家的見地よりして論究せられて、地價を修正せよとか、地租を軽減せよとか、市町村義務教育費の一部を國庫に分擔せしめよとか、治水事業を整頓せよとか、耕地整理を進捗せしめよとか、米券倉庫の制度を設けよとか、金融機關の整備を圖れよとか、低利資金の供給を潤澤にせよとか、其の他種々の方面より見たる頗る高遠深大なる理想論である、素より何れも農村を振興せしめ農村を救済するの方策には相違ないので洵に結構なる建策として歡迎するのである、然れども餘

りに高遠深大なる理論は長し早晚天下の輿論となつて實現するとも、數年月を要し、或は不可能に終ることもあらふと思ふのである、故に余は極卑近にして、効果を收め易い救済策や振興策の發表せられんことを望むのである。

農村問題に就て談話中、或人はどうして斯んなに農村は疲弊したのであらうかと驚愕したことがあつた、余は忌憚なく近頃の農村の困憊は今更驚くべきことでない、寧ろ當然の結果だと答へたのである、又或人は近年米價の暴落は農村疲弊の最大原因なりと云ふた、是れ又余は米價安を以て農村疲弊の原因とは認めぬので下の如く答へた、米價の暴落は素より農村に打撃を與へたるには相違なきも、最も著るしき原因は種々ある中に、先づ農村が華奢に流れて虚榮心の勃興したるに由るのである、如何となれば、暫く目を閉ぢ手を拱きて虚心坦懐今より十年前と、其の以後に於ける生活の程度を對照して見るときは、胸中自ら浮ぶものがあるであらうと、則ち農村の疲弊は決して近時俄に興りたる現象ではなくして、其の原因は遠く日露の戰爭平和當時に胚胎したるのである、何となれば、世界の強國たる露西亞に打勝ちたる日本國は一躍して世界一等國の伍伴に列し、歐米各國よりの文物輸入に連れて、一

般に衣食住は忽にして華奢に流れ、勤勞の美風は漸次懶惰の惡傾向と變化し、如何にして財を獲るかを研究せずして、素りに奢らんとするの氣風が、農村一般に溢流して居る、而も農産の収入は依然として格別の増收はないのである、此の惡傾向は因襲の久しき、一の習慣となつて、農村に流行して居るので、農村は一種の病氣に犯されて、而も病膏育に入つて、早第三期の症狀を呈して居ると云ふても過言ではあるまいと思ふ、此れが最大原因の第一である。

次は農村が醇厚俗を成さぬことである、醇厚とは國運の發展の爲め必要なる實踐躬行の事柄として、更に缺くべからざるは醇厚の徳である、其の醇厚の徳が風俗をなしておらぬことである、熟々農村の状態を観察するに(1)虚飾とか(2)輕薄とか(3)詭點とか云ふ様な、いとも恐ろしき病氣が、各町村の一部に流行して居る様な感じがある。

(1)虚飾と云ふ病氣は、うはべを飾るので、力を内方に用ゐずして外面に用ゐる、上表に向つて力を用ゐれば、勢内方に向つて用ゐる所の力が減せざるを得ず、多少人は見えも大切であるけれども、先づ實力を養成した後の事である。實力ある者が實

力相應に見える事こそは社會に必要なれども、實力なき者が實力不相應に見えるのは、却て社會の感ひを生ずるものである。

(2)輕薄と云ふ病氣は、既に内面の薄つべらなることが、明に外面に現はれたるもので、これに至つては殆んど醇厚の人が、これと齒を共にすることを愧づるのである。

(3)詭點病とは積極的に己を欺き人を欺きて以て或る目的を達せしとするものであつて、所謂策畧の流行と云ふ事は、此の詭點の風が次第に人心を腐蝕しつゝある證據である、人には固より略がなければならぬ、又事に常あり、變あり、随つて事に處するには、又正道と權道とが在ることは勿論であるが、彼の所謂策なるものは、人を欺き己を欺くもの、況んや其の目的が、世を濟ひ人の爲にするに在らば恕すべき點がないでもありませぬが、徒らに無用の術策を弄して得々として、自らは當世の通人才子であると思ふ如きは、實に醇厚の俗を傷くるの甚だしきものである、この三つの病氣は、農村困憊の第二の原因であらうと思ふ。

次には農村に中心人物の缺乏である、農村に於て、多少の筆算を心得、いくらか口が利ける人は、田舎に居つて農村の經營とか、産業の發展とか、面倒な事柄に參與

することを好まず、官吏や會社員となつて、月給生活を敢てするのである、そこで
偶々産業組合の興らんとする場合に於て、理事者其の人を得ない爲め、遂に不成立
に終ることがある、又既設組合にしても役員に適當な人物在らざるため萎靡不振、
名在つて實なき組合もない様には窺はれるので、これも亦農村不振の原因の
一つであらう。

次には農家が經濟の原理に暗らきことである、入るを量りて出るを制するは、經濟
の原則である、奢らんと欲せば須らく先づ如何にして財を得るかを研究せねばなら
ぬ、けれども、現今農村の状態はどうであるか、一年の收入支出を明かに記帳して、
所謂入るを量りて出るを制する様な農家がどれ丈あろうか、思ひを此に致せば、誠
に曉天の星も管ならぬ感じがあるのである、如此有様なるが故に、不知不識の中に、
生活程度が贅澤になるのである、以上述べたる事項は農村困憊の重なる原因なりと
思ふのである、然らば如何にして其の困憊を救済して農村を振興せしむるか、余の
愚見は次の如くである。

今や農村の疲弊は其の極に達して居るので、これが救済を圖り振興を企つるは眞に

焦眉の急に迫つて居る。だからして最も捷徑なる法策を建て、速に危急を救はねば
ならぬ、それに就ては、餘りに高大深遠なる理想的の意見や理論は、農村の實情と隔
離し、實施して其の効果を收めんには、未だ隔靴搔痒の感があるのみならず、格別に
利のないものである、どうしても農村の根底より改良せざれば、附膏藥的では決
して目的は達し得られぬと思ふ、故に余は敢て言ふ農村の振興は

農村が自覺して勤儉の美德を養成する

にありと。則ち前に述べたる第一第二の原因たる華奢、虚飾、輕薄、詭譎是れ等の
病痾を根絶し又産業の開發に資すべき中心人物の養成に努め、經濟の原理に基く收
支經濟を明にし、精神の修養を怠らずして、惡習慣を根底より改良せざるべから
ざることを自覺することである、この自覺は獨り農民のみではなく、上は町村を代表す
る町村長、其の補助機關たる區長、町村の意志機關たる町村會議員、教育家たる學
校教員、道德家たる神職僧侶、其の他の有志者より、下は一般人民に至るまで、所
謂上下心を一にすることである。言ひ換ゆれば町村當局の努力と農民の奮勵を要す
るのである、恐れ多くも戊申の御詔書に上下心を一にし忠實業に服し勤儉産を治め

惟れ信惟れ義醇厚俗を成し華を去り實に就き荒怠相戒め自疆息まざるべし。と宣らせ給ひたるは、先帝陛下が一般臣民の浮薄輕佻を戒め給ひたる大御心であることを恐察し奉るのである、御製の歌に

ともすれは浮きたちやすき世の人の

心のちりをいかてはらはん

世の中はたかきいやしきほどほどに

身をつくすことつとめなりけれ

目に見えぬ神のこゝろにかよふこそ

ひとの心のまことなりけれ

くろかねの射しひともあるものを

つらぬき通せやまことゝろを

然らば如何にせば自覺することが出来るか、如何にせば勤儉の美德を養成することが出来るか、他なし

戊申詔書の御主旨を一般農村に徹底せしむるを以て願る急務なり

と思ふのである、其の方法に關しては、縣郡、縣郡農會、或は教育家其の他關係當局、相提携して一致協力、男子も女子も普遍的に一堂に集めて講話會を開き、戊申詔書の御主旨を極平易に説き示し、一般に之れを徹底せしめて、長くも先帝陛下の大御心に副ひ奉らしめ、傍ら生産物の需要供給の關係、經濟の原理、勤儉貯蓄の必要事項を説述して、知識の向上を圖り、尙町村内に農事小組合の設立を奨励して、産業の開發、副産物の増收、勤儉貯蓄を共同の力に依りて實行せしむるのである、要するに其の手段方法は他にいくらもあるならんが、余は如何にしても、農村が御詔書を基礎として自覺心を惹起し、併せて勤儉力行の美風を養成することを、最も大切なることと思ふのである、斯の如くにして果して農村が、因襲の久しき眠れる夢を醒し、愈本氣になつて、華奢の風潮を抑制し、且産業の開發に最善の努力を盡し、勤儉の美德を養成することが出来たならば、農村の救済は早一部の目的は達し得られた譯で、自ら農村は振興するに相違あるまい、精神一到何事か成らざらんやだ。

なせは成るなさねは成らぬ何事も

ならぬと云ふはなさぬなりけり

併し茲に注意すべきは勤儉の儉の字である、儉と云ふことが、ともすれば吝嗇と間違ふことがある、儉約は節し得らるゝものは節約すると云ふ意味であるが、吝嗇とは大に趣が違ふのである、吝嗇と云ふものは、たとへば一旦袋の中に入れたるものは、口を縫りて何事にも一切出さないと云ふことで、云はゞ我慾である、儉約が餘りに消極的に流れて、勤勉と云ふ事に意外な影響を及ぼした實例がある、久しき以前高知縣の或る所に於て、人々家々、諸事儉約なすべき旨を申合せ、一郷學て綿服は愚か羽織の紐の如きは必ずこよりを使用する事に改め、總べて下駄を廢して草履に代ふるなど、節し得らるゝ丈は節し、貴賤と老幼とを問はず、一般を通してこの申合規約を勵行せしめたのである、斯る有様なれば、皆々數年の後には、家富み民榮え、貧しき町村は忽にして裕かなる者に化すべしと念ふた、然るに何事ぞ、結果は悉く意表に出でざるなく、貧しき村は益貧しくなり、富むべく期待されし町村の希望は、水泡に歸したのである、如何にも合點し難ければ、事の由來を調査せしめたるに、この申合ありて以來、富める人も粗食を忍び粗服を纏ひ、貧しき者と選ばずなりし一事が、痛く多數の輩をして勉め勵むも其の詮なきを嘆せしめ、縱令富を

爲すも日常生活にして、貧者と異なるなくんば、寧ろ勞り勵まざるに若かさるべしとて、最早以前の如く働かざりしに由ると、或はこれ迄村の若き娘共は、田植にも草刈にも新らしき手拭でも被りて、威勢能く事に當りしを、一朝この申合ありてから、孰れも張合抜けの面持にて、爾來一人として勇み奮つて業を執る者出でざるなど、意外な所に影響を及ぼしたるためと知れ、扱はど計り呆れ返りたる由である。斯る話は勤儉の最も消極的であつて余が云ふ所の勤儉は左様な意味ではない、經濟學の原則としては需用と供給と共に活潑ならざれば斷じて國家の經濟は振興せないのである、民大に勤め、産業を開發するも需用熾んならざれば、結果は必ず生産過剰となる、而かも過剰なる生産悉く之を國外に輸出する能はずんば、究局は則ち産業の衰頽を來すのである、華奢の風潮を抑制すべしとて、食事の度數を減じ羽織の紐は紙捻を用ゐ、且肥料を減じ農具の修繕を止むべしと云ふ意味でない、外見の虚飾を避くるは勿論なるも必要品は充分之を滿たし、寧ろ生産方面には、積極的に活動すべしと云ふのである、而かも左の二首の歌の心を玩味して甘く其の調和を圖らねたいと云ふのである。

いつの世も世間しらすの義理しらす

情しらすが金持となる

せにかねを使ひ捨つるもたわけもの

喰はずにためる人も馬鹿もの

農村の諸君が一家の事は申す迄もなく、町村の教育土木衛生等の方面に向つても、能く儉約と華奢とを混淆させないで能く區別を明に立て、上下の人が愈々自覺して心を一にし、表面ばかりでなく本氣になつて、華を去り實に就き、荒怠は互に相戒めて、天行の健なるが如く自強息まなかつたならば、農村の振興は勃然として實現するのであらう。

根本に觸れよ

古賀 信義

農村の振興は要するに農村収入の増加を計り農家經濟の發達を促すに在る。而し

て近時農村問題の喧しき所以の者は其處に何等かの原因存する無くんばあらずである。

我が國の統計を見るに主作物たる米の産額に於て明治三十八年に三千八百萬石反當一石三斗二升のものが十年後の大正三年には豐年であつた關係もあるが其産額五千七百萬石反當一石八斗七升九合に増加して居る、而して其間漸次收量の増加の跡を示して居る、麥に在りても亦同様で明治三十九年に反當一石一斗二升三合のものが大正四年の十年後には一石三斗一升三合の數量を示して居る、尤も其間一進一退がないではないが兎に角漸次向上の趨勢をなしてゐるのである。それで一寸前述の米ばかりでも十年間に千九百萬石の増加で一石十圓の安値に積りても一億九千萬圓の収入が農村には殖えて來た勘定となる。

由是觀之も明治維新以後文物の輸入激増したるに搦て、加へて商工業は世界的となり、歐亞大陸の影響著しきにも拘らず斯くの如き漸次收量の増加あるより推察する時は——尤も或る作物には之れが爲り全然地を拂つたものがあるのだが——如何に其収入に於て農村、農家の經濟的發達を來せるかは容易に首肯し得らるゝ所であ

る。尙農村人口の増加率を見ても又作付反別の年毎に増加するを見ても夫れが我が國農業否な農村の發達、發展こそ示せ近年國の上下を通じて絶叫せらるゝ農村の疲弊、農村の廢頽は何にも是等數字上に顯はれて居らぬ

然るに西歐の農業は如何。其衰頽の歴史を觀察するに其全盛期は十九世期中葉であつた。此の頃漸次發達し來れる農業界に於ては封建の制度打破と人身の完全なる自由を以て唯一の目的とせる自由主義の農業政策起れると同時に農民は自由なる土地所有權を獲得せるを以て大に農民の歡迎する所となり益々勤勉の度を増し、曩きに輩出せる、リービツヒ、アーサーヤング、アルブレヒトア等の學說と共に農業技術の進歩は益々農場の純收益の増加を來たしたのである。尙且つ將來の土地の純收益は益々農業技術の進歩と共に増加あるべきを思ひ地價はいやが上にも暴騰して來たのである。然るに十九世紀の後半殊に其末葉になつて工業の發達は農業經營者の頭上に痛棒を與え農業労働者は人身の苦痛少なく且賃金の高價なる都會の工業に轉ずるもの漸次多く交通の便は海外發展により殖民地の隆盛となり農業労働者の賃金漸く高く、殖民地の發達は低廉なる農作物の供給を豊富ならしめ内地に於け

る農産物の價減じ收益價格以上に評價せる土地所有者たる農民は却つて反對の現象を呈し農民漸く負債に苦しみ農村漸く衰微し、廢頽して來たのである。茲に於てか斯くの如くして放置する時は再び起つ能はざるの悲境に陥るべきを思ひ各國は種々保護政策を施すに至り或は産業組合に或は關稅保護政策に只之れを放置して立國の基礎を工業にとれる英國に在りては耕地徒らに存して農村の廢頽を來たしたのである。

由是觀是我が國農村の疲弊、衰頽と稱せらるゝものは全く然らずして西歐の夫れとは甚だしく其趣を異にしてゐる、寧ろ我が農村、我が農業は隆盛の域に進みつゝありと言ふべきである、

然れ共近年米價の下落、蠶業の不振は農村疲弊の聲を益々高からしめた、事實農民も累年の不景氣に困り扱いたであらうが之は一時的の現象ではなからうか。仔細に農村の状態を觀察する時は茲に看過すべからざる事實を發見するのである。其の看過す可らざる事實とは如何。本縣の如き農業が唯一の産業である國に在りては特に此の感深しである、乞ふ我が農村の現状を尙一步觀察せしめよ。

農村人口、作付反別、米麥實收高の増加は益々農村の収入を増し従つて農家經濟の發達を來たし數字上より見る時は何等農村疲弊の事實なきが如しとは業に已に述べた通りである。而して昨今の蠶絲の全盛、米麥の漸騰（米は近時稍々低下の状態にあるが）新米に於て小農家は先月の高値の時期に賣放したるもの多く農村は寧ろ春風駘蕩である。農村疲弊と騒ぎ廻る者は却つて善い面の皮である。然れども農村に金廻りの善い時が農村振興の證であると言ふのは又あまり皮相の結論である。

勿論夫れも強ち農村の振興でないとは言はぬ、吾人其の局に當るもの夫れを以て足れりとしなない、農村の眞の振興は結局農村問題の根本と一致しなければならぬ、農村の完全なる救済は農村の眞の振興である、其の字義に於ては異なるが結果は同一である。

既往二十年我が農村の状態を觀じ來り、之等事情に通ずるものにして中農家の衰頹、自作農家の減少を是認せざる者はないであらう。是れを我が國の統計に徴するに、

	明治二十五年	四十一年	大正三年
自作農	三三、三四	三三、二七	三一、七三
小作農	二〇、六三	二七、五八	二七、八五
自作兼小作農	四六、一三	三九、一五	四〇、四二

以上は自作、小作、自作兼小作の各農家數の百分比である。此表で見ると自作農は漸次減少し小作農は又逆に増加を來たしてゐるのであるが假りに我が國の農家數を平均五百萬戸とすると明治二十五年より大正三年に至る二十二年間に自作農に於て八萬六千五百戸年平均三千九百三十戸の減少で小作農に於ては三十六萬一千戸年平均一萬六千戸の増加となつてゐる。夫れから自作兼小作農で之れには自作の主たるものと小作の主たるものとあるが明治二十五年より全四十一年まで自作農の減少の割に甚だしく減少してゐる而して小作農に於て急に増加してゐる、又大正三年には自作農が割に多く減じて自作兼小作農に於て少しく増加し小作農に於て稍々増加であつて大した變動ではない、之れに依つて見ると自作兼小作農は自作農より小作農に至る過渡期であつて明治四十一年以前は自作兼小作農に於て小作の主たるもの

多かりしに由る可く大正三年の増加は自作農より自作の主たるものに下りたるもの多かりしに由るのである。

尙之れを耕地の所有反別より見ても亦樂觀す可き傾向を示して居らぬ。即ち一町以上二三町歩を所有してゐる中農家、自作農家と言ふものは漸次所有土地を手放して居る、而して所謂五反百姓なる者が益々増加してゐる。五町歩以上の地主側に屬する者は又漸次耕地を併せ膨脹して居るが其多くは大地主の併呑する所となり其戸數に於ては左程増加して居らぬ。自分は昨秋縣下二三の農村に就きて斯かる調査をした事があるが皆如上の状態で其或る地方の如きは大地主の併呑盛んにして中農家自作農家は殆んど負債に苦しんで居る所も發見したのである、前述の如く我が國の大勢も概ね斯くの如しで常に國家棟梁の材を輩出し健康なる人士を都會に供給してゐる此階級の減退は實に國家存立上其中堅を失ひつゝあるものにして甚だ憂ふべきの現象である。之れ農村の疲弊に非らずして何ぞ、農村の沈滞、不振皆茲にあるのである。従つて農村の救済、振興も亦茲にならねばならぬ。故に農村救済、振興の理想は五反以上二三町歩所有の中農家、自作農家の増加であつて小數の大地主

の存在よりも、寧ろ中小地主の増加である。

我が國の農村の沈滞、疲弊の大勢は今述べた通りであるが又地方に因りても種々異なつて居る。故に舶來の裏書付の産業組合や農業保護の關稅政策でも夫れが丁抹や佛蘭西に於て成功し或は成功しつゝあるにもせよ直ぐには應用が出来ぬ、それは却つて中産者以上を利するに止まり小農保護の目的を達する事が不可能なる場合があるからである。

因りて農村の振興策を講せんと欲せば先づ地方農村の状態を診察して置く必要がある、また容体経過をも總べて詳かにしておかねばならぬ。要は是に依りて農村收入の増加を計り農村經濟の發達を促せばよい。農村の沈滞、疲弊を見て盲目的に種策する所ありても病氣の原因を能く看破せずして投薬し夫れが大博士の發明に係る藥餌であつても却つて有害であると同様である。窒素肥料に飽きたる稻に豆粕を與へても夫れは稻熱病の原因にこそなれ其の最終の目的には合致しない。病馬は同じく病馬である。之れを無暗に鞭つても其の前途歸着するところは覺束ない、故に吾人農村救済、振興を策する者は只其根本に觸れなければ何にもならぬ。誤たざる

診察は茲に有効なる處方箋を與ゆるものである。胃病にアンチヘブリンを與へても先づ其の効能は疑しい。之れに熊の胃を與ゆれば夫れが舊式なりとは言へ寧ろ根本に觸れたる政策である。

將を射んと欲せば先づ其馬を射よと云ふが如き古言は農村の振興策としてはあまり有難くない。敵將の左右に落下する弓矢は益々何等の價値を有せないものである。況んや見當違ひに放ちたる場合に於ておやだ、一矢弦を離るれば直ちに敵將の首を得るが如き弓矢こそ正に吾人の取るべき政策である。

農村の振興には種々其方策があるであらうが要は農村沈滞、疲弊の根本に觸れたる政策を施し農村發達の理想に近からしむるにあるのである。

農村振興の中心人物

三島壽作

顧ふに經濟社會の狀勢を觀察するに大生産は小生産を壓し富者は益富みて富の勢力

日に月に強大を加へ元來小農組織の我農界は漸次萎靡の傾向を來し今や農村救済或は振興の必要なるを新しく述べたつるまでもなければども皆何人も之れに對し御同感のことと思ふ而も斯様に農村農家が困難に陥りたるは果して如何なる原因に基づくのであらうか農村の救済或は振興の法を講ずるには農村を解剖し其の原因を熟知せざるべからず然るにそは農村農家に由りても事情を異にし學者政治家に由りても議論を異にし必ずしも一言の結論に到達せざるも予の田園生活に在りて其實際上よりして觀察したる所によればそこには種々雑多なる原因の懷胎し容易に之れを解決し得べき者にあらざるなり然るに之れを一般的に述べれば現今に於ける經濟の廢頽したるは内部より發したる自業自得のものと外圍より來たりたる幾多の壓迫とに由るものにしてつまり時勢の變遷止むを得ざるものとも云へるが實は之れに應ずべき準備の足らぬのに歸すべきであるされば假令手遅れの感あるにせよよく其の原因の存在するところを探知し奮つて時勢に相應すべき手段を完ふするなれば現今農村に於ける經濟界を順調に歸着することも至難の業には非らざること考へる

予は經濟上の困難を論じて内部より發したる原因と外圍より來たりたる原因とに歸

したるも尙之れを細別に説き明せば其の最も主要なるは左の如くであると思ふ

其一、當業者に於て農業經營に付き組織的知識を有せざること

其二、實際技術上に當り學理の應用を施す能力を有せざること

其三、人口の増殖に對し生産増加の伴はざるること

其四、思想上の變化を來し有爲の人を有せざること

其五、農業を嫌厭する徒食の遊民を増加すること

其六、農業の利益少なさに拘らず生活の程度特に昂上したること

其七、都會の壓迫を享け農村特に過重の負擔をなすこと

其八、人生に必要な機關は單り都會に集中すること

其九、農家の知識尙幼稚にして時勢の變遷に應せざること

以上は農村經濟上の困難を來たせる主因にして其一乃至其六は内部より發したるもの其七、乃至其九、は外國より來たりたるものである之れ即ち農村農家の今日の困難を致せる原因なりとすされば農村農家の困難を排除して其の原因とする所の病患を治療せんとするには論ずべき範圍極めて廣汎に亘り一朝一夕に之れを述べ盡くす

こと能はずして而も其の原因とする所の各種の病患は相混合し相化合して既に膏肓に入つたものとも認められるのである隨て其の治療の效を完ふするには頗る多くの月日を要するのみならず政治的にも法律的にも經濟的にも道德的にも技術的にも社會的にも夫れ／＼多方面の調査研究を累ぬるの必要があるのみならず到底吾々の卑見を述べ盡くす範圍にあらず

要するに現今農村經濟上の困難を治療し進んで振興せしむるには其の方法素より區區に亘りて一律にて論ずべからず

現今農村の状態を露骨に云へば近時進歩の反面には道德頹廢し個人主義は發達し自己の富を増殖するには下り坂を押す車の觀ありて其の停止を悟らざるが如し土地は兼併せられ金權主義は無限に増長し中小農民に對する保護等に傾注するもの至りて少くなく態々勸農の士來りて救済及振興の方法を講ずるも馬耳東風の觀あるのみ農業經營組織に鈍き中小農家は方針なく計畫なく時勢の變遷に應ずべき經營は勿論のこと唯に眼前の利慾に迷ひ失敗の曉には祖先傳來の田畑は地主の手に移り落ち行く先は徒食の柔弱無氣力不健康の遊民となり一攫千金主義の徒をして益々増大ならしむ

遂には不徳を極め農村の人心を攪亂し共同の精神は頽廢し種々施設の必要を認むるも成立せず折角成立するも久しからずして解散の悲運に至れり畢竟農村農家の振興を策するには農家それ自身をして奮發せしむるは勿論必要の事なれ共兎角中小農家の父母となり相談相手となるべき地方地主の農村に於ける責任を明かにし又農家の友人たり指南者たるべき技術員を設置し尙町村勸業に關する當局者の人選を適當ならしむるにあり

全國を通じて現今相當の成績を擧げて居る農村の實例に徴するに其の農村には必ず中心たりし人物の力與かりて大なるものあるを知り得るのである最早農村の救済及振興に就きては多年の宿題にして其の施設方法に於ては上下論者畧は同一にして又當局に於て相當施設實行中なりしも遅々として成績學がらざるは中心となり得べき人物の缺乏でなく之れ農村の中心となり農家の父母たり友人たるべき人物の缺乏に一大原因せり

要するに予は本縣現今農村の振興を策するには農家の生産を増進せしむるに副業の獎勵耕種上の改善又は産業組合の設立をして購買販賣生産の方法を改善し或は町村内

に於ける遊金の融通をなし從來濫造せる講會を改善し地方高利貸を擊退するは必要なれ共先決問題としては此の任に當る中心的人物なる農村地主の刷新を計り次に町村技術員の設置尙勸業當局者の適任者を得るの要必せり

一、農村に於ける地主の責任を覺醒せよ

農村に於ける地主の責任と云へば多少語弊あるが如きも予の云ふ責任は道徳上の責任にて現今農村に於ける地主の小作人に對する關係世の進歩に伴ひ却りて正反對の現象を來たし殊に本縣に於ては他縣に比し其の甚だしく小作人の保護獎勵に傾注せるものは極めて少なく縣外千葉愛知三重の如き先進地に於ては地主の小作人保護獎勵に關して施設せる事項決して少からずして且つ成績顯著なり農村に於ける地主が眞に地主たるの責任義務を全うせば農村は彼等の手によりて改善せらるゝことあるも決して改惡せらるゝ心配なきなり

維新前に於ては農村に於ける地主は其の地方の長者として一般より敬意を拂ひ地主は小作者に對して殆んど子弟の關係を有し農村に於ける勸業土木教育衛生諸般の事業に精神的に考慮し指導獎勵の結果其の遺蹟確然たり現今に於ける多數の地

主は斯かる事柄に付きては等閑に附し農村を離れ都會との往來を頻繁にし農村關係は切手代用し益々荒涼落寞たらしむるのみならず反面には閑居して不善をなすは小人のみならず却りて大人の罪甚だし農村に於ける地主と小作人との關係は之れ決して地主を損して小作人を利するに非らず小作人を利するは間接直接地主を利する所以なり即ち車の運轉すると同じく常に其の利を共にすべきものなり地主たるもの農村に於ける地位を自覺し小作人の經濟狀態を改善するのみならず更に其の精神狀態の改善を勸め宛も小作人の父母たり小作人の師兄たるの趣をなせば農村命脈の一半は直ちに改善せらるゝと云ふも實例に徴し過當にあらざるなり

二、町村技術員設置の普及に努めよ

縣下十二郡に對し町村の數三百六十有餘にして現在技術員を設置せる町村は普通農事に三十人農蠶業に三十一人蠶業に八人農蠶林業に三人林業に二人畜産に一人計七十七人にして縣下全町村數の約四割六分に過ぎざるなり
農村に於ける技術員の必要は實際上明かに其の必要を認め農業者の朝夕相談相手となり顧問となり直接農事に従事して居る小中農の智識を開發し其の自發的活動

を促進し既定の學理を應用せしめ農業經營技術上に改善を奨むるは極めて必要な施設なりとす現今既設町村の一般的成績に徴すれば未設の町村に比し農事上の施設續々設置せられ農家の指導啓發に當り其の成績瞭然たり

予は農村に於て大に活動すべき使命を有する町村農會の改善を計り農村振興の前提として悉く町村農會に技術員を設置せしむるの切要を感せり

三、町村勸業當局者の人選を適當ならしむ

抑も勸業の事業たるや其の開發は其の局に當るべき者の識見努力によりて作用せられ町村に於ける勸業の進運は悉く勸業係に於て其の責任に非らざるも又決して其の責任重なるも亦輕るからず町村に於ける現今の狀態を觀察するに動もすれば之れを輕視し新任者の事務見習場所となし又は他の職務に努め得ざる人生を超越したる老朽の御祭り場所となり机上に於ける職務に對しては遺憾なからしむるも素より勸業上の職務は財務衛生庶務等に比し割合に肉体的活動を要し農家に接觸し直接間接經營上の相談相手となり其他農事の指南者となり一面には技術員を補佐し或は指導し得る人をして此の任に當らしめば直ちに種々の施設事業は起り町

村勸業の實學がるべきものにして他の實例に徴して明かなり斯るが故に町村勸業の當局として其の人選の適否は其の町村勸業の進運に至大の關係を有するを以て相當なる適任者を採用するを極めて緊要なりとす
要するに農村を振興せしむるには農民をしてよく誘ひ精神上法律上經濟上教育上産業上等に關する訓練を完たからしめ農村農家將た農業の經營をして寸毫の遺憾なからしむるを得ば現今に於ける農村問題も圓滿に解決を告ぐるの觀あるなり

農村の自治的振興策

井上龜五郎

農村振興策として論ずべきこと施設すべきことは多方面に亘り或は政治上、教育上、宗教上、道徳上、衛生上よりして或は産業上經濟上よりして殆んど數限りなかるへさも農村民が外部の保護援助を俟たず自ら進んで産業經濟上よりして自治的に振興を策する方法に至りては凡そ左の數項を必要とせん

第一農村の振興には先づ適當なる管理者を必要とす故に苟も一郷一村に長たる人は篤實熱誠以て村民を統率せざるべからざるは勿論なるが其の方法としては先づ其の主宰せる郷村の實力を調査すること肝要なり即ち村内の生産消費輸入の關係土地所有の状態負債貯蓄の額並其の増減冠婚葬祭の慣行勤怠努力の餘裕等に付調査を遂くへし

第二調査に基きて策立すべきは先づ以て簡易にして實行し得べき村是の大綱を立つるにあり餘りに細目に涉れる調査方法よりも年々一割増の生産實行方法又は年々一割減の負債償却方法若くは全村空地の利用方法米麥品種の改良統一全家副業の普及方法共同の植林事業自治改良の根本たる信用組合及社會的經濟的機關たる販賣購買生産組合の設立等を企て又組合規約を設けて一面には勤勞を奨励し一面には陋習を打破して時間と元費の節約を圖る等直ちに實行し得る方法より着手するを要す
第三是等の方法を實行するには善良なる世話人を要す故に必ず先づ各村に熱心にして且圓熟せる農村指導員を置くべし農村指導員は技術經營信念の三者に於て堪能にして且調和せる者ならざるべからず

農村指導員には技手なる職名に代ふるに産業主事なる職名を以てするを可とす何となれば技手は技術一方に冠する名稱なればなり

第四農村指導員は少くとも拾年位は勤続の必要あるを以て村に於て見込める青年を選び公費又は寄附金を以て農學校に入學せしめ卒業の上農事試験場農會等に於て實習を積ましめ然る後其の村の世話人たらしむへし

第五農村指導員以外の世話人を養成するには左の方法に依るへし

1、村内の重立者を集めて村政研究會を開き又は短期講習を行ふこと

2、簡易講習所巡回講演會青年夜學會等を利用し先づ地方開發に必須なる實行事項及其の手續等を實際的に教習すること

3、村内の狀況村是の大綱及其の開發の方法を廣く教育者神職宗教家醫師等に領得せしめ是等の人々を指導者として機會ある毎に村内の人々に説き聞かすこと

4、優良村優良産業組合優良農事小組合等を視察せしめ又は其の地方の當事者を聘し實例に基き改良を實行すること

第六農村指導員が村人を指導するには左の點に注意するを要す

1、村内有力者の信用を得るには技能以外に公平無私熱誠なかるへからす

2、『仁を視て法を説け』の格言を守り老若男女其の他氣質識能の異なる人々に對し臨機應變夫々順應したる説法を爲すこと

3、權門に馳せて媚を賣り貧者を蔑如して猥に權威を擅にするか如きことなく誠意同情公正を保持すること

4、講習又は講話は或特別なる場合を除くの外技術以外に經營經濟宗教教育道德等人情問題に觸るゝこと

5、部落講話に重を置き老幼男女を問はず誘導開發に努むること

6、智徳體の修養に努め時勢の進運に着目して常に何人よりも一步を抽つるの心掛肝要のこと

第七農村の小學校長及教員は農村開發に緊切なる關係を有す故に先づ師範學校又は教員の講習會等に於て地方經濟の狀態並農村の繁榮策等に十分會得せしむる必要上地方自治と産業組合の事を必ず教授するを要す

第八我國の如き農業の規模小なる國柄に於ては小農の個人經營以外に共同經營に

依りて利益の増進を圖らざるべからず故に甲乙種農學校に於ては産業組合米券倉庫を始め各種の共同經營事業に付智識を授け趣味を養成する様教授するを要す

第九青年會の牛耳は卒業生たるの故を以て母校校長之を採るを常とす從て其の事業が智徳體の三育に關係あるもの、外經濟的活動に觸るゝものなきは全く指導者其の人の頭腦なきに因る場合多きが如し故に校長にして經濟的指導能力に缺くる場合は寧ろ農村指導者たる産業主事若くは地主の子弟之れが統率に任すべし然らすんは村長自ら進んで其の會長となりて大に其の活動を圖るべし

第十借金を返済し土地を買戻し其の他農業資金に充つる爲め低利資金の運用を必要とす凡そ一村五百戸の村が五萬圓の資金を必要と爲さば毎年五千圓宛の貯金を作り十年間に五萬圓の金と爲し之を其の村内に活用すべし是れ産業組合の働きならずや

第十一若し土地を他町村の者に賣らんとする者あらば之を産業組合に買置き本人をして小作せしめ漸次買戻の方法を立てしむべし

第十二産業組合にて精農を表彰し不幸なる者を救助し肥料を世話する前に土壤を

検査して其の調合を爲し特用作物養蠶果樹園藝養鶏養豚等の事業より加工製造品に至る迄其の地方々々に適當なる副業を奨励し共同の倉庫及加工場を作り物品の保管精米精麥製粉厭搾乾燥製麵製紙製糸製織製材竹細工等の事業を興し婦人の爲に産業家事經濟衛生教育等の講習會を催ふし尙齒會を開きて老人を勞ひ時々神職僧侶を招きて地方の爲めに盡したる人の祭祀供養若くは精神講話を爲したらんには産業組合は眞に活ける地方振興の機關たるべし

第十三樹を植ふるさる山魚を養はさる池並樹なき道路果樹なき崖は無論のこと原野池沼等にして利用すべき空地尠ならず是等利用の餘裕地を調査し一坪の空地をも捨てず何なりと利用するを肝要とす五百戸の村に一戸百本宛の桐木を植ふる五萬本の桐木を毎年間伐して教育費全部を得つゝある町村ありと謂ふにあらすや

宅地の整理に依り毎戸二畝歩宛果樹栽培に利用し平均拾圓宛の収益を得るものとせば本縣々費百四五拾萬圓は此の利用に依りて生ずべし

第十四生産物の共同検査共同加工共同荷造共同販賣は最も利益ある方法なり是蓋し産業組合米券倉庫等にて實行すべし緊要事にあらすや

第十五副業の奨励は刻下の喫緊事なり而して副業の奨励には凡そ二個の重要な事項を含むことを忘るべからず何ぞや

1、副業の奨励は必ず販賣組合と離るべからざることなり即ち販賣組合に於て能く販路を調査し生産の數量又は品質等に付進善調節を圖り大量生産大量取引の原則に従ひて販賣し始めて能く事業の進展を來すことを得べし

2、副業の奨励は又必ず貯金奨励と關聯せざるべからず如何に副業に依る収入が増したればとて貯蓄せざれば富の増加は圖られず常に富の増加が圖られざるのみならず却て奢侈を助長し惡風を誘起するの媒となる慎むべし

副業の奨励登三思を要せざらんや

第十六米麥の多收奨励は素より必要なり然れども其の品評會の如き從來多くは其の方法を誤れり爲に近時批難の聲高し這は畢竟其の目的か定まらざるに由る若し多收品評會が現在に於ける農家の識力を以て其の地方に於ける土地の生産力を如何程迄に昂進せしめ得べきやを自治的に試験せしむる丈けに留まらば凡二三年間も行へは可なるべし之に反して若し其の目的か單に多收に留まらず經濟的に多收を得るは

あらんか從來の方法は全然之を變更せざるべからず今や農村指導の方法は最も眞面目にして眞價ある者ならざるべからず多收奨励品評會の改善と相俟ちて一步を農業經營品評會に進め以て農家をして經營其の宜しきを得せしめざるべからず

第十七農産物品評會も勿論必要なり然れども其の結果か往々にして品評會目的の農産物を奨励するか如きことに陥り經濟上何等の價値なきもの多きは甚だ遺憾とするところなり當局者宜しく留意するところなるべからず尙一步を進めて經濟調査展覽會を開催して農民各自の經濟的自覺心を喚起する方法を講ずべし

第十八簡易講習所青年夜學會處女會等の機關に依りて低度の農村的教育を授け新聞圖書を購讀せしめ又は名士の講演若くは講習を受けしめて識見の昂上に努むべし斯くて世間を解し事理を辨しなほ自から向上發展の氣運は興るべし

第十九農業經營の方法を講究し最も完全なる農業組織の方針を確立すべし

第二十農家簿記を必行し量入制出は勿論收入の増加支出の減少に依りて純益を多くし貯蓄を慣行し富の増進に努むべし

恒産なければ恒心なく衣食足りて禮節を知り倉廩盈ちて榮辱を知り茲に初めて福徳

完備の農村を樹立することを得へし

疲弊せる農村の爲に

迫 鐵 太 郎

凡そ農村は社會的基礎たる農民、物質的基礎たる土地を有し國家を形成する要素にして之が興廢は國家盛衰の因となれるは古代希臘、羅馬の歴史を繙きて明かなる所なるが現今我國地方農村の情勢を觀るに年と共に頽廢し農村の疲弊其度を加へ農村救済農民覺醒なる語盛に唱導せられ當局者又之が善後策を攻究しつゝあるは現時經濟界の變遷に際し尤も緊要のことたり、古來我國の農村は富國強兵の主義に於て國家の基礎となせるを以て農村にして一度疲弊し困憊せんか我國の前途誠に憂慮に堪へざるなり半世紀前今日の我農村に似たる悲運に沈淪せし丁抹が健全に發展進歩せしは農業立國の方針に依り健實なる産業政策を遂行せし結果に外ならずされば當局者當業者相提携して今日の困憊せる我國農村を救済し振興せしめざるべけんや

今日に於ける我國農村の衰退は單に經濟界の變動のみに基因せず總べての文化的原因が相錯綜して外因となり内因となりて農民心理を變遷せしめし結果に外ならずして舊幕時代の農地自由賣買禁止分度の制限、職務の自由禁止解除せられし結果個々孤立の生存競争は經濟思想低級なる農民階級の貧富をして益々懸隔を甚だしくし大農は砂利を黃金化し中農は減少し小農は立つ可からざる窮地に陥れり古來よりの自給自足的經濟は搖撼し世運の進展に伴ひて生活は勿論子弟の教育費より冠婚葬祭に至る迄向上し加ふるに日清日露の二大戦後は益々國運の振長を促し従つて公課著しく増加し農家經濟に急激なる變動を生じたるに反し農民の耕地には制限ありて且つ其生産額の進度は之等の負擔を補ふこと能はず且つ一朝天災に處せんか負債は負債を生し益々農村をして衰微の悲運に陥らしむるの現状にあり之の錯雜せる農村を救済し振興せしむるに於て單に内容空寛たる机上の論に止めず普遍的に顯著なる實現主義を欲せば須らく國家政策の根本に立ち入るを要すと雖も亦疲弊の依りて來る所を採求し或は積極的に或は消極的に彼斯相呼應して改善發達を促す時は農村の振興何ぞ難からず

一、農村自治機關と農民

天下人ありて始めて事あり世上に於ける總べての事業の興廢は全く人物の如何に依りて決するものにて人物は本にて事業は末なり農村の改良發展は到底人間改良を外にして得べからず如何に完美せる模範を執り施設經營を試るも靈魂の存せざる農村振興策は之れ栽培のみに心を注ぎて種子の撰擇を誤まれるが如し何ぞ寸效あらんや農村に於ける人間改良の第一着は自治機關の改善にあり農村の振否は自治機關たる町村に依りて支配せらるゝ事決して少からず故に農民をして自治機關の整美及運用の方法を自覺注入せしめ苟も一部の情實感情に制せらるゝなく農村經營の知識經驗を有し誠實に自治の發達を念とする健全なる人材を選出するの村風を養生するにあり凡そ人は壽命あれ共農村には壽命なく人の存在は一代たりと雖も農村の存在は不朽且つ無限たり其の無限の村政を左右する自治機關は單に歴史的に既往の施設經營を繼承するを以て足れりとせず時勢の進運に伴ひて大に村政の改善に努め福利民育の道を講ずるは勿論産業政策の如きは一定の方針を確立し子孫繁榮の道を計らざる可からず情弊に依り政黨に依り頻々として自治機關の主腦者を交迭するが如きは農

村の發展を阻害すること決して鮮少ならず然り而して農村の涵養としては本縣の如きは開墾其他に依り農村の基本財産を蓄積する上に於て容易なる位置に存在するに依り農村の機關は之の方面より農村の基本財産を造成し自治運用の資に供し一面には今日の負擔の幾部分を軽減し民力の休養を計るは農村救済上最も緊要なる事項の一なり然りと雖も自治機關如何に奮勵努力するも其農民にして一致共同以て自治機關と相提携することなきか恰も糠に釘打つが如く何等效を奏することなし故に機關は主腦となり村民は身体となり相倚り相扶けて農村の振興に努めざる可からず

二、農村の金融

物々交換の經濟時代は貨幣經濟となり貨幣經濟時代は信用經濟となり今日の農業者は單純なる生活時代を脱却して複雑なる經濟界の渦中に投入せられ其業態も亦一種の資本的となり努力萬能主義に依ること能はざるの時代に際し農民の負擔は益々増加し衣食住は益々向上し爲めに生産資金の如きは全く枯渴し速に資金融通の道を開くに非ずんば高利貸の跋扈となり農村の振興は得て望む可からず之が救済の機關としては農工銀行勸業銀行の設けあれども之等は零細なる資金を要求し且つ擔保品を

有せざる細農にありては何等利便を感ずることなし之等を救済するには信用組合を
縣下普遍的に設置するの外なくして之に依る時は組合員は對人信用により隨意に小
額の資金を借入るゝ事を得るを以て資金欠乏の農村は信用組合を設立して一方には
農事改良の資金に充て他方には貯蓄を奨励して經濟の基礎を形成するを要す近時縣
下各農村に於て資金獲得上種々の名目の下に講會の設立あるは農業資金欠乏より來
れる現象とは云へ縣下に於ける講會を見れば成績良好なるもの少なく不知不識の間
に農村衰頹の原因となれるもの決して少からず故に一時の困窮より逃れんとする講
會の設立の如きは大に警戒せざる可からず獨り講會のみならず農家が資金の融通を
仰ぐが如きは前述の如く必要の事なれども又收入少なき農家には大に考慮を要する
ものにて之が流用の適法を知らずして反て低利資金の爲めに致命症を起せるもの多
きは縣下到處に聞く處なれば如何なる低利資金と雖も充分回收の方法適確なるに
非ずんば之が使用を戒め可及的自給自足の途を立つるの覺悟を有せざるべからず
而して資金の欠乏と共に縣下農民の困憊を來せるは農家の商的經營其の宜敷を得ざ
ることに基因し農産物の生産販賣より肥料の購入に至るまで新時代の商的行爲に慣

れずして中間商人に暴利を食られ不利を招くこと不尠之を救済するには産業組合米
券倉庫業に依るの外なくして縣下農村發展上縣農會が産業組合設立に大に努力しつ
つあるは故なしとせず

三、空地の利用

人類は土地を離れて生存し得るものに非ず然るに此の土地にして吾人が農業を營み
得る部分は甚だ狭少にして我國全体にて五百七十萬町歩を算すると雖も之を總面積
に割當つれば僅かに一割七分餘に過ぎずして之を本縣に徴するも亦然り而して之の
狭少の耕地に就ては土地の利用厚生の道著々研究せられつゝありと雖も其他の土地
問題に付ては全く閑却せられつゝあるは現時の如き農村疲弊の際には大に考慮を要
する所なり殊に本縣下の如く原野、堤防、畦畔、道路、其他宅地等何等利用の途なく閑
却せられつゝあるは縣經濟としても大に看過す可からざる所にて斯かる部分は農村
として又は個人として殖林し又は利用木を増殖し或は綠肥を播付くるが如きは農村
を富裕せしむる上に於て大に效果ある事業なり凡そ疲弊せる農家の生計を圓滿に維
持するには収益少なき單獨農業に依頼する事は危険且つ不經濟にて須らく八百屋的

農業を經營し主たる農業に依りて生計費の大部分を獲得するの外一部は資本勞力を要せざる前述の空地利用の方面より之を補ひ或は畜産物に求むる等從來の不完全なる農業組織を改善して勞力の許す限り種々の副業を營むに非ずんば農村は今日の悲境より脱却して圓滿に發達する事は至難なり

四、農村の娯樂と地主の奮勵

近時我國のみならず流行的に農村の衰頹を來せる原因の一是都會集中熱之なり之を防ぐに非ずんば農村の健全なる發達は望む可からず自由思想自我發展の欲望は有爲の農村青年の胸中を刺戟し我が驥足を伸ぶるは新天地にありとし妄りに相競ふて都會に集中するの傾向あるは營利的思想資本主義的精神に因ると雖も亦都會生活は趣味及事物の變化多きに反し田園生活の單調にして汲々として耕作せし農民に對し精神的並に肉體的に於て何等慰安の道なき爲めに快樂要求に因ること少からず故に適當なる娯樂機關を設け田舎の單調なる趣味を豊富ならしめ農民をして農村亦樂しからずやの感を起さしむる時は何ぞ清淨なる農民にして進んで暗黒と罪惡との醸造所たる都會に向ふものあらんや之が爲めには農閑を利用して團体的視察旅行を企つる

も可なり或は競馬、角力、劍道、村祭り品評會の餘興等も可なり之等の施設は單に農村として娯樂機關となるのみならず農民をして土着の念を強からしめ農民の精神を和し身体を鍊磨し不知不識の間に農村の維持振興を來すこと大なり

又農村に於ける地主は教育智識の點に於て農村の指導者なれば親切叮嚀に誘掖して農民を教育して之が地位を高むるは勿論自ら農事上の模範を示し率先して地方の開發を計らざる可からず而して縣下に於ける地主對小作者の關係を見るに何等其間に密接なる關係なく地主は殆んど小作米を收得せば足れりと云ふが如き觀念を有するは縣下農村不振の一因にして農村は地主對小作者の相倚り相扶けて發展し地主の利害は小作人の利害と一致するを以て地主は大に農村の爲め計らざる可からず

元來農民は今日の文化に浴すると能はず智徳共に缺乏するを以て之を開發するに非ずんば農村の改善は望む可からず農村に於ては單に物質的施設完備したりと雖も之を開發し指導する人的要素の進歩せざる限りは農民は困窮より脱却すると能はず故に農村に於ける技術者の如きは時代の要求に後れず専門の技能を發揮すると共に農村自治の涵養に精力を注ぎ有志家徳望家は田園に留り村民を善導し教育家は單に學

校教育のみに拘泥せず農村教育社會教育に奔走せば農村は大に發展すべきや明なり

五、農民の發展

農村に其人を得且つ農業組織完備し農事上諸般の設置亦周到し獎勵指導遺憾なく施されしと雖も人力及び土地生産力には制限あり加ふるに人口増加は逐年激甚にして停止する所なし我國に於ける農業組織が年と共に集約を加へ延いて農民の收入減少し農村不振を來せるは理の然らしむる所にて當局者如何に之が救濟策を講ずるとも遂に机上の空論に終る事必然たり

之に於てか農民は掌大の耕地に樂觀せず大に發展せざる可からず世界は廣し六尺の体内地のみに纏礙せず數十町數百町歩の大地主となるべき新領地は各所に累々たり南北亞米利加、暹羅、濠洲何れも可なり殊に本縣は支那朝鮮滿州に接近せるを以て農民は一家集つて移住し子孫を繁榮し勢力を擴張する時は内は農村の健實なる發展となり外は我國が將來各文明國に對して確固不拔の基礎を作り國勢發展上尤も必要の事なり

要するに農民は自暴自棄に陥らず高利の下に呻吟せず盲從的に勤勞せず舊慣を墨守

せずして大なる計劃大なる思慮とを以て戊申詔書の旨を体し勤儉産を治り華を去り實に就き荒怠相戒め自強已まざるの自覺的精神を養ひ自ら變動極まりなき經濟界の優者たるべき覺悟を有する時は農民は悲慘なる状態より脱却して農村の振興何ぞ難かるべけんや

積極的農村振興策

木村 虎雄

農村振興策を論ずるに當りては先づ其の前提として農村荒廢の原因を究め、而して徐に之が斷案を下すを以て順序とする所であるが、農村荒廢の原因に就ては從來朝野名士の間に論究せられ既に夫れ夫れ意見の發表を見たる所である、而して吾人の所論も亦之と大同小異にして屢々本縣農報紙上に論じたことがある。故に餘白に乏しき本書に於ては之の煩を避け直ちに表題の問題に向て所論を披瀝して見たいと思ふ。

今日まで農村振興策として議論せらるゝものは多種多様で、今茲に一々評論するの道はないが、凡そ農民に利便を與へ利益を附與する精神的、物質的の施設は總て農村振興策に相違ないものと思ふ。併しながら農村は複雑なるものである。複雑なるが故に單一なる農村振興策に依て困憊せる農村の振興を圖ることは頗る困難のこととせねばならぬ。例へば農家副業の奨励である、農家の副業は農家の収入を増加せしむる唯一の方法で、農村振興策として重要な位置を占むべきものである。併しながら副業其の者は前述の通りであるも、奨励すべき土地の風土、民情、勞力の繁閑等を考察せず、猥に奨励を加ふる場合は、農家の業態を攪亂し反つて疲弊を招致することがある。又假令之等の憂なく順潮に發達するも、之れが爲に奢侈を誘致し農村の疲弊を招くことがある。故に農村振興策を畫策するには農村に於ける各種の事項が互に相倚り相扶けて、肩々相摩し併進するやう努めなければ單に一事業の興隆に依て農村の繁榮を望むことは出来ない。之の見地より吾人は農村振興策を內的振興策、外的振興策及び補助機關の三項に別ちて論じたいと思ふ。

內的振興策

內的振興策として吾人は第一に指を農村住民の自治思想の涵養に屈したいと思ふ。夫れは農村に於ける中心人物を得る階梯として斯く叫びたいのである。農村に於ける中心人物、之は久しい問題で識者の夙に焦心せる處であるが、之を養成することも亦中々困難である、何となれば一村の興廢を双肩に負荷すべき人物は短時日の養成に依て村民の信頼を得べきものではない、天質既に具はる篤實なる人物でなければならぬ。而して農村にはかゝる人士の必ずしも存在せざるものではない、之を難するのには農民の自治觀念に乏しき結果、只自己の利害を見るに敏にして間接に襲來すべき公共の幸福を排除するからである。故に吾人は農民の自治思想を涵養し、目前の利害問題に目を迷はさず、公平無私、心を坦懷にして眞に一村の興廢を託すべき人物を推擧し之を補助することが農村振興の根源と信するのである。

第二には農村事務の刷新である。由來農村の事務は頗る複雑で其の主管する處多方面に亘り之が整理をなすには多大の勞力を要するに拘はらず、近年委任事務は増々膨脹し、爲に農村の福利を増進すべき固有事務に就て考慮すべき暇を與へない狀況である。之は一面住民の利便を圖り且つ行政の最下級の機關として洵に己むを得

ざる結果ではあるが、之が爲に経費を増張し、農民の負擔を加重するが如きは宜しく刷新を圖るべき事柄であると思ふ。其の整理の方法は幾様にも諸賢の講究に俟たねばならぬが、差當り戸籍事務、衛生事務の如きは警察署の主管に移すか又は之に對する経費を國庫の支辨に仰ぎ、縣稅國稅の徵收に要する交付金を増加し、教育費の國庫支辨の如きは當に適切なる整理事項と思ふ。

第三には、財政經濟の整理である。現今農村に於て最も困難なる處は財政である、而して農家の苦痛とせる所は負擔額の増加である、殊に近年に及び町村費の増加は著しきもので特別の事情を有せない町村に於ても一萬圓以下に下る村費の支出は甚だ稀である。今假りに村費一萬圓を五百戸を以て負擔するとせば、一戸の負擔額は貳拾圓となる、現今の農家經濟に於て之の負擔額は決して軽い税ではない、仍て之が軽減を圖ることは農村振興上顯著なる効果を齎すべき事項と思ふ。然らば如何なる方法によりて削減を圖るかは、既に農村事務の刷新に於て述べたる處であるが、尙村費の過半が教育費に支出せらるゝことは看過すべからざる事と思ふ。勿論、教育は人間活動の根源であるから之が縮少は許す可からざるもので経費の如き吝むに足

らないが、徒に外觀の美を衒ひ流行に追はれて機械、器具を購入し費用を多くするが如きは宜く慎重の考究を要する問題と思ふ。然りと雖經費の節約を欲する餘り、教育の進歩を阻害するが如きは時代の進運と逆行するの愚を學ぶもので賞讃すべき事柄ではないが、恒産ありて恒心あり、衣食足りて禮節を知る、の論法よりすれば外觀の美を捨て内容の充實に勤めねばならぬ。都市に於ける施設を模倣し形式に全美を盡すが如きは農村に於ては贅澤なる施設と云はねばならぬ。尙教育者の努力及び内外の情勢に顧みて内容に變りなければ二部教授若くは複式編制も吾人の希望する所である、殊に學校、道路其他子々孫々永遠に利便を與へ幸福を増進すべき事業の經費は第二の農民たる後繼者に賦課するも異議なかるべきものなるを以て一時に賦課せんより村債を起して急を補ふが如きは財政上の研究を要する處ではあるが、事業の性質上不合理なる問題ではない、尙經濟の基礎を強固ならしむる爲に基本財産の造成又は蓄積を圖ることは永遠の事業なりと雖振興策としては其の一に數へざるを得ない。又農民各個の經濟を明かにすることは自制心を涵養し活動の基礎を促進するものであるから、各農家に於て極めて簡單なる方法により收支の計算を明かに

することは必要なる事柄である。

以上は吾人の農村振興策としての内的施設の一端であるが、之等の施設と相俟て吾人の所謂外的振興策を施さねばならぬ。

外的振興策

外的振興策としての第一は農業技術の改善を促し収益を増大ならしむることである。近時本縣の農業技術は縣郡の當局及び各級農會其他の指導誘掖により長足の進歩を來したと云へ、尙改善すべき事項が甚だ多い、殊に本縣農家の耕作地の如き狭小なる反別に於ては、粗より精に入り、精より密に入り、而して生産の増加を圖ると俱に一面適當なる副業を撰擇して生産の増加を圖らねばならぬ、併しなから只徒らに多産主義に偏して収益を顧みざる如きは農業經濟の根本を破壊するものであるから茲に技術の周到なる注意を必要とする、輒近切りに奨励を加へられつゝある種子更新、自給肥料の製造、深耕の如きは収益増進上最も適切なる施設である。副業に至りては其地々々に適應する事業を撰ぶは緊要なる事柄である。現今縣下普遍的に行はるゝ蠶業は農家副業として適當なるは論するまでもないが、併しながら

一戸の掃立は桑園の限り、家内人数より打算して飼育し、其他畜産、茶、山林等荷も収益の増加を來すべき諸施設は悉く奨励して大に生産の増加を圖らねばならぬ。仍て之等の事項を管掌奨励の任に當らしむる爲め、専門の産業技手を設置するのは農村振興策として有効なる施設であると推舉したのである。

第二には農産物の販賣方法の改善及び生計品の共同購入並に肥料其他農業資本の共同購入に關する施設である。如何に生産を多くするも其の販賣方法に於て缺陷あるときは、折角の多産も水泡に歸する譯であるから、可成高價に販賣する方法を採らねばならぬ。夫れには取引に於ける仲買の手續を省き、可成需用供給の兩者が接近するやう努めねばならぬ、需用者、供給者の間に直接交換行はるれば之に増したる良法はないが、農産物多種の内には之の理想を實現することは中々困難である。仍て仲買の壟斷する利益を排除し、而して仲買の獲得すべかりし利益を販賣者に於て納むるの方法を講せねばならぬ。然るに複雑なる現今の經濟界に於ては、個々の人が叙上の方法を講ずるには其の相手方を索めるのみにても多大の勞力を要するに より、勢、共同販賣の方法に依らなければならぬ、而して其の方法は産業組合法に

よる販賣組合を設立するを最善の策なりとするも差當り任意の組合を設け施行するも差支ないと思ふ。而して共同購入も亦之の理由に依り廉價に購入することに心掛ければならぬ。

第三には金融機關の設置である。由來農村の金融機關としては所謂無盡講なるものありて或場合に於ては其の効能を發揮しつゝあるも、現今の如き進歩せる經濟界に於ては其の面倒なると、金融の不確定なると、其の金融の時期が限定せらるゝ關係上漸次減少して、現今に於ては地方地主側専ら金融の衝に當れるやうである、而して之の金融も時代の變遷に伴ひ、對物信用と變化せる爲め、中産以下の農民に於ては之を利用することを得ないのである。若し強て金融を得んと欲する場合に遭遇したるときは惡辣なる小金貸の爲めに膏血を絞られ遂に轉亡の已むなき境遇に沈淪する者が少くない、故に最も資金に缺乏せる中産以下の農民に低利なる資金を貸附し、農業資金に投せしむると俱に一面高利の借金を返済せしむることは農業の發展を促し其の生産を増加せしむる所以にして農村振興上喫緊の要事たるを信するのである。

以上述べたる處により農村として、一通りの形を備ふることが出来る、乍併、其は只外形を形造れるに過ぎずして之を活動せしむる爲には諸種の機關を要する、則ち補助機關である。

其の第一は農村教育である。現今の農村に於ては叙上の施設を見る處決して少くないのであるが、甚だ振はないのは、農村教育に缺陷あるからである。近時經濟界の發達に従ひ醇朴なる農村に於ても輕薄なる市井の風習瀰漫し、利己本意となり互讓和親の美德に缺け、奉公の念將に地を拂はんとするの狀況である。斯の如き現象は困憊の甚しき農村に於て特に目撃する所である。所謂背に腹は變へられずの筆法で人間が如何にも野卑に見へる、かゝる農村に於ては時代の要求に應ずべき諸種の事業は起るべき筈がない、而して益々困憊する。仍て吾人は國民教育に従事せらるる教育者に一臂の助力を冀はざるを得ない、則ち國民教育を擴張して農村教育に努力せられんことである、言葉を換へて言へば農村精神界の指導者となり農民の歸向を説かれたきことである、其の方法に至りては茲に絮説するを要せず既に報徳會なる傘下に於て右の趣旨を實行せられつゝある處もある。吾人は各部落毎に父兄會又

は母師會を設け毎月一回若くは隔月位に開催し戊申詔書を敷衍し農村に於ける和衷共同の精神涵養及び自治自立の精神的確立等専ら農村に於ける精神的利益の増進に向て指導せられんことである。

第二には農村に於ける有志の會合である。熟々現今農村の状態を見るに、農村に於ける有志の融和飽合して自治の刷新に努力せる地方は概ね優良農村として唱へらるゝ。如何に敏腕の中心人物を得たりとするも、農村有志に於て其の事業を補助し指導するの心掛けがなければ、彼をして縦横の手腕をなさしむることは出来ない。仍て吾人は農村有志を糾合し、加ふるに學校教員、巡查、神官、僧侶、醫師等苟も農村自治の發展上直接間接關係ある人士を網羅し、村役場主催の下に自治刷新會なる會合を組織し、春秋二回之を開催し虚心坦懷、秉公持平、將來農村の進行すべき方法につき村勢に照し腹藏なき意見の交換をなし、而して採るべきは採り捨つべきは捨て、以て當局者を指導鞭撻する機關たらしむることである。之の場合縣郡の當局を聘して農村振興上に關する意見を聞き又は議論を上下するが如きは有益なる施設であると思ふ。

其他消極的政策として用を節し、勤を貴び、奢侈を戒むる等農村振興策として施設すべき事項多々あるも、吾人は積極的に農村振興策を論じて茲に擱筆する。

農村振興策

熊本縣農商課長 鳥海 二郎

農村の振興に關しては既に朝野の名士先輩によりて數多の意見發表せられ今更吾輩の如き論議を挿じ餘地なきか如く考へるのであるけれども今回本縣農會の切なる要求があつたから聊か卑見を開陳しやうと思ふ

近時農村疲弊困憊の聲殊に喧しく農村の振興とか農村の救済とか或は農村の改善とか云ふ言葉を盛に聽くのであるが農業に深き關係を有し特に一縣の農政の局に當つて居るものとしては斯くの如き聲を聞く事は誠に遺憾至極であるけれども實際に於て眞面目に農村を研究し其振興改善を圖る必要があるから致し方かない然れども農村の窮狀は今日始めて新しく突發せる者でなく從來中農以下の經濟状態は決して豊

てなく漸く維持せられつゝあつたに過ぎない而して歐洲戦乱勃發以來穀價の暴落が一層深酷なる打撃を與へたのである然らば如何にして農家は斯くの如く收支の均衡を失し窮狀に陥つたかと云ふに元來我國農家一戸當りの耕作面積を極めて狭少にして耕地より得る収入も寡少なるのみならず概して經濟思想に乏しいのである彼の藩政時代にありては農家は衣食住に至るまで極端に拘束せられ而かも社會經濟上の影響は今日の如く甚しからず生計は頗る輕易であつたのであるが明治維新後は是等の掟は悉く撤去せられ世運の變遷と共に多年養はれたる寧ろ慣習となつて居つた農家の勤勉力行及び分度を守るの美風は漸次薄らき文明の産物たる奢侈を衒ひ虚飾を喜ぶの惡風は山村水郭の郷に至る迄も浸潤し衣食住費は云ふまでもなく社交費公課金等は年を逐ふて増大し生活費の向上は殆ど底止する所を知らざるの狀況である然るに農家の知識は一般に淺薄殊に經濟思想に缺如して居るから収入は支出に随伴しないので益々窮境に陥つたのである茲に於てか自然の結果として農業を厭ひ祖先の郷土を遺棄し都市の巷に彷徨し或は遠く移住出稼するものが絶えない本縣に於ける農家戸數は最近十ヶ年に於て驚くへし實に六千四百四十三戸を減少して居る斯の如き現

象は種々の原因によるとはいへこの邊の消息を語るものであらうと思ふ
農村の狀態は斯の如き有様である此時に當り其振興を畫するの方策は決して單純でなく多種多様なるべく大に考究を要すへきは論を待たざる所なるか要するに單に農業技術の改良發達を企圖するのみにては到底今日の狀勢を挽回し健全鞏固なる農村を築くことは出来ないと思ふ然らば如何なる手段方法を講ずるを以て今日農村の窮狀を救済し振興せしむる上に於て最も適切なる方法なるやと言ふに吾輩の感想を以てすれば農村實際の狀態を政治教育經濟宗教等あらゆる方面より精細に調査攻究して其眞想を剖き然る後之か救済振興上最も適確なる方策を樹て農民をして能く居村の實態を理解せしむると共に農業の組織經營の方法を知得せしめ之を自覺の上に導き常に指導督勵を加へて其方策の遂行に力を盡し且つ又帝國の國民として必要なる訓育を施し智識の向上をはかり又一面農村に於て絶大の權力を有する大地主をして農業に興味を持たしめ農業各般改良事業村治上有力なる顧問たり指導者たらしむると共に經綸の材幹と高き人格を有する新進氣鋭の人物が進んで農村自治の衝に當るへき途を啓き大正の現代に適應せる理想の農村を築くへき基礎を造るを以て農村振

興の根本政策なりと信するのてある尙左に述へむとする數項は本縣農事の實情に鑑み刻下農村振興上の急務とする施設と思惟するのてある

耕地面積の狭少なる農家にありては地力の許す限り生産の増加を期せされは農家經濟の維持は困難である本縣に於ける農家平均一戸當り耕作反別は一町一反歩にして主要農作物たる米麥作に就て之を見るに米作は反當り收穫は全國の平均以上の地位にあるも尙將來栽培技術の改良により其收穫を増加し得べき餘裕少なくない且つ肥後米の名聲噴々たりしは既往の事に屬し今日に於ては各府縣か競ふて品種の改良米質の改善に力を竭し覇を争ふに至つた結果從來本縣人の誇として居つた米は東京深川市場に於ける評價によれば全國中決して上位ではない兵庫又は山形の産米に比すれば遙に安値にあるの一事を以ても如何に改良の必要なるか窺はれるのであるは反當り收穫は全國中最劣等の位置にありて其増收の餘地更に多大なるものあるを知る事か出来る尙地方に依りて之等の作物作付面積を増大し得る餘地も尠くない即ち耕地の利用擴張に餘裕あるを示すのである本縣に於ては明治四十四年度農事試験場設置以來重要作物品種の改良普及の事業に主力を注ぎ設立以來尙淺きにかゝは

らす相當の成績を挙げつゝあるは喜ぶべき事である又大正二年度より農事必行事項を定め之か遂行に努め或は縣農會事業として特に採種圃の經營を爲さしめ以て農事試験場の施設と相待つて優良種子の普及を圖らしめつゝありて漸次更新は行はれて居るも未だ全きを得ず實に農業技術の改良發達により更に肥培の方法を改善し耕地整理により土地生産力の増加耕地の擴張を圖り以て生産の増加を促進し乾燥調製に力を注ぎ品質の向上を圖るは農村の維持發達上緊要なる事項なりと信するのである主要農作物に就きては如上の如しと雖も之れのみを依頼して他の作物の栽培又は副業を輕視するは本縣に於ける農家の通弊なるが如くである彼の岡山縣又は靜岡縣等の特用作物の普及並に副業の發達せる地方の状況を調査して見れば米麥其他穀價下落の影響は極めて僅少にして却て此等主要作物價額の下落は特用作物栽培其他の副業をして著しき進歩發達を促せりと言ふ事である殊に耕地の利用に就ては周到なる注意を拂ひ如何なる作物か最も風土に適し且つ純益多きやに就き當業者各自か研究考慮し官廳其他団体等の指導勸奨を待たずして卒先從事し此難局に處してよく自衛の途を講しつゝあるの状況は當業者の自覺と經濟思想の發達に基因し一面土地の

地理的關係に餘儀なくせしめられたるものあるべしと雖も以て本縣當業者の大に學ぶべき點てなからうか殊に岡山縣に於て驚くべきは一昨年美作地方風水害の爲め米作皆無なりし爲め救済の手段として農家の婦女子に對しミカド帽子の講習を爲せしが昨年は實に六十萬圓以上の製造を爲せしといふ（ミカド帽子製造因果してよき副業なりや否やは別問題である）か如き顯著なる一例である

倍て本縣に於ける特用農作物の主要なるものは蘭草大麻苧苧煙草等て副業として最も普及して居るのは養蠶である其他製紙製茶疊表の製造菓製品並に果樹蔬菜の園藝業である此等の農作物に就いては耕種栽培法の改良販路の擴張の餘地充分ある事と思ふ尙此等の作物以外に本縣の風土に適し收利多きものもあると考へるのである副業中養蠶製茶等に就いては夫々方針を定め奨励せられつゝあつて近時長足の進歩をなして居る尙副業に就いては縣農會に於て大に調査しつゝあるを以て他日具體的の成案を見ると共に之か奨励の方法等も確立する事と思ふ以上述べたる特種の作物の栽培と副業とは農村經營上等閑に附すべからざる事である茲に注意すべきは嘗て本縣に於て大に勸奨せられたる養鶏或は麥稈眞田の如きものゝ失敗の原因を充分に探

究して再び其轍を踏まざる事である

尙農村に於ける著しき現象は逐年自作農は小作農に變し小作農は田園を去り自營の職業を失ひ他人のために労働するが如き状況で恒心なきもの漸く多からんとするが如きは農村維持上遺憾なる事である故に之を救済し生産分配の調節を圖り農村の基礎を鞏固するには産業組合の普及發達を圖る事が最も緊要なる事である本縣に於ては該法發布以來極力其の趣旨の徹底を圖り之が設置を奨め大正四年度よりは特に縣農會に經費を補助して一層組合の普及發達をすゝめつゝあるので近時漸く百六十餘の設立を見るに至りしも尙未だ縣下全町村數の半にも達せないのであるから尙後最善の力を盡して少なくも町村數以上には達せしめなければならぬと同時に一方に於て既設組合の改善を圖るは實に必要な事である若し豫期の如く組合の設置を見此等の組合が内容充實し充分組合の本能を發揮する様になれば農村今日の状況を挽回し其隆昌を扶ける事は疑なき事と信するのである尙從來本縣に於ける農家經濟上の指導は産業組合事業の外奨勵施設の見るべきもの少なく農家の經濟的觀念は極めて幼稚の域にあるを以て此方面の知識の注入啓發は大に必要を感するのである縣農會

が本年度より實施せる經濟講習會の如きは適切なる方法であらう尙農家生産品の販賣の如き産業組合が活動する様になれば世話はないが當分此方面の指導も必要と考へる

以上述べたるは農村の振興上急務なる施設なるも永遠に農村の活動隆昌を圖らんとすれば實に農民の自覺に俟たなければならぬのである而して其の自覺は教育の力に依らねばならぬと信する即ち農村の振興を圖るには農業教育の普及發達を期する事を忘れてはならぬ本縣に於ては中等程度の甲種に屬する農業教育は相當完備して居るけれども乙種程度並に町村に於ける低度の農業教育は未だ完成の域に達して居らない様である茲に於て縣に於ては向後郡部に於ける乙種程度の農業學校の普及發達と農村に於ける小學校及補習學校に於て適切なる組織の下に農業教育に關する施設をなす事は極めて必要にして自覺せる農民の養成は實に小學時代より薰育をなさなければならぬ此の他農家の戸主青年婦女子に對しても力の及ぶ限り適當なる教育を施し現代日本の農業者として耻かしからぬ智能を授くる事に努むるは健全鞏固なる農村の基礎を形成する上に於て痛切に其必要を感ずるのである

農業は我國産業の大宗にして之を國家經濟より論じ社會學の見地より觀察し將た又軍事上より看る等各種の方面より研究するも農業の尊重すへき所以は明なる所に於て今更喋々を要しないのである殊に本縣の如き其生産力の七割は農業の生産に俟たざるへからざる狀況にありて主要作物の豊凶價額の變動は縣經濟に及ぼす影響甚大にして寔に縣民の福利は一に農業の振否にありと云ふも過言でない尙且つ歐洲の戰爭は一國産業殊に食糧品の獨立の急務なるを教へつゝある而して今回の戰爭は何れの日にか其終局を告ぐるべしと雖も列國は戰爭と全様戰後に於ても矢張武裝的平和を續くるものと推測されるのであつて我國としては益産業の發展に努力し國富の充實を期せなければならぬ

一國産業の發達の如何は國家が採る所の政策宜しきを得るや否やにある其政策は既往の事實を調査し現在の狀況に照らし以て將來を洞察して樹つべきものである然るに我國に於ては應用經濟學の一たる農政學の如き其研究は尙不充分にして専門の學者にも乏しい殊に農業政策は他の産業政策と異りて其結果は十數年の後にあらざれば見る事が出來ないのである従つて農業政策を樹つる事は頗る至難の事であるから

一層慎重なる考慮を要するのである以上述べたるものは淺學なる吾輩の農村振興に關する卑見に過ぎないのであつて先輩識者の懇切なる指教を切望する次第である而して右の方策を如何なる手段方法によつて實施するのが最も適切なりやと言ふに至つては更に研究の餘地多き事と思ふのであるが要するに世運の變遷事業の性質に鑑み本縣農村の實情に照し有識の士と共に研究し以て遺策なきを期し農村の振興を圖りたいと思ふのである

大正六年三月三十日印刷
大正六年四月一日發行

熊本縣農會

右代表者

木村 虎^住
熊本市新原町二百三番地

印刷者

平 田 信^治
熊本市上通町五丁目四十二番地

印刷所

九州日日新聞社印刷部
熊本市上通町五丁目四十二番地

339
915

終

